

リアホナ



家庭の夕べの中で家族を強める
32ページ

啓示が必要な理由
8ページ

家庭の愛
「フレンド」12ページ

リアホナ



表紙

表紙—写真/ロバート・ケーシー、
写真はイメージです
裏表紙—写真/ウエルデン・C・
アンダーセン、写真はイメージです



「フレンド」表紙

写真/リチャード・M・ロムニー



「啓示が必要な8つの理由」
8ページ参照

一般

- 2 大管長会メッセージ—悪に立ち向かう 大管長 ゴードン・B・ヒンクレー
- 20 苦しむ人々への哀れみ 匿名
- 25 家庭訪問メッセージ—寛容さを通して主の愛を感じる
- 26 救い主のように教える 七十人 ウォルター・F・ゴンサレス
- 32 家庭の夕べの提案箱
- 36 鎖の輪 エバ・フライ
- 38 ウクライナで家族を第一にする マリーナ・ミハイロフスカヤ、ベンジャミン・ゲインズ
- 42 末日聖徒の声
 - 秘密の天使 メアリー・バートスキ
 - 祈る勇氣 ダルネイ・デ・アスンサオ・デ・カストロ
 - アガボはどうなのですか? エリック・ヘンダーショット
 - 死は新しい始まり クラウディア・ヨランダ・オーティス・エレーラ
- 48 読者からの便り

青少年

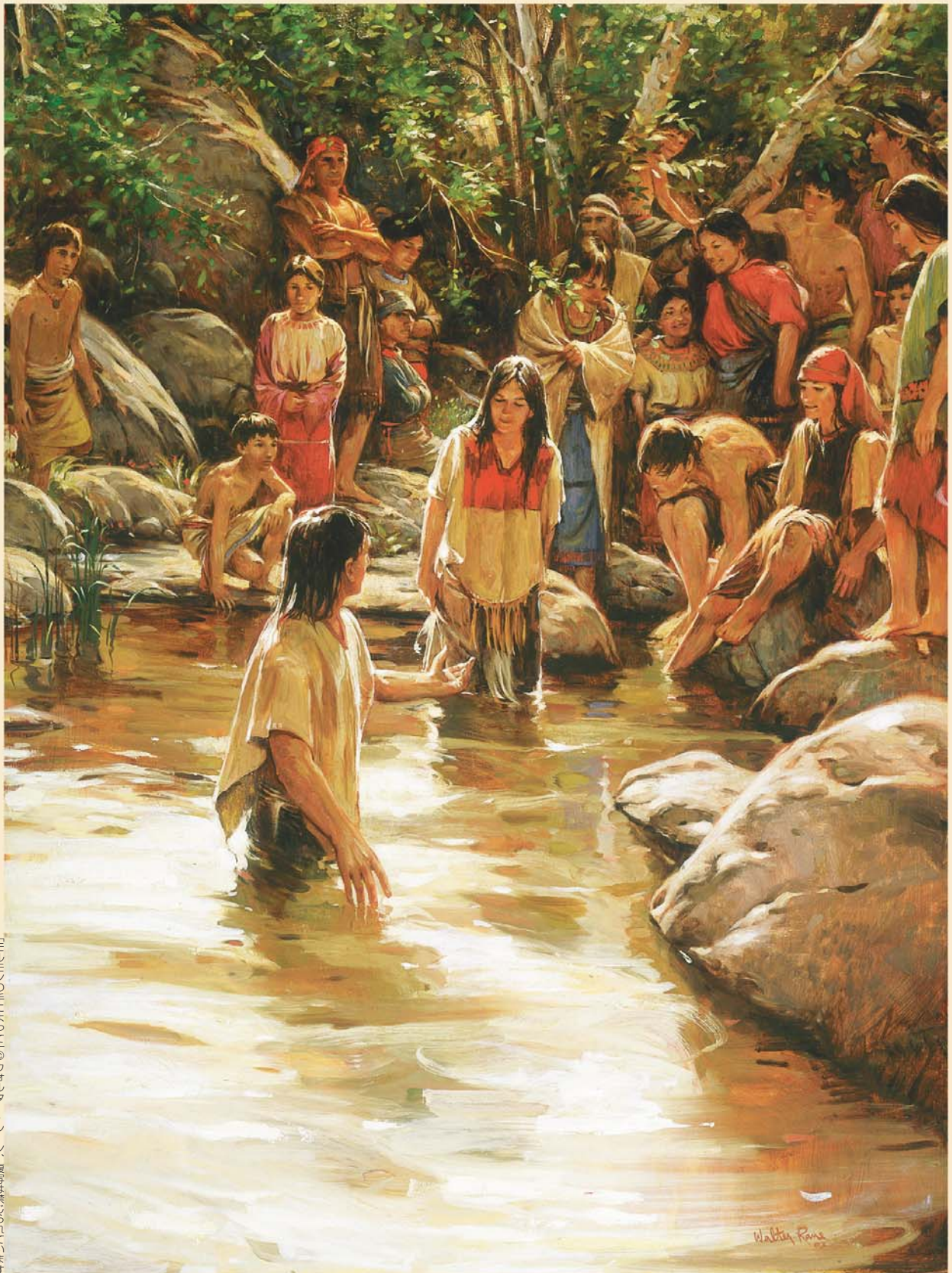
- 7 家を見いだす ローカス・ソアレス・ノブレ
- 8 啓示が必要な8つの理由 十二使徒定員会 ダリン・H・オークス
- 13 ポスター—思いのレベルを上げましょう
- 14 やっと分かりました ファビオ・エンリケ・N・ダ・シルバ
- 16 末日に初めて召された宣教師 ライアン・カー
- 30 賜物と導き たまものホルヘ・L・デル・カスティヨ
- 47 御存じでしたか

フレンド

- F2 預言者の声—宝の地図 よげんしゃ こえ たから ちず だいいちふくかんちょう 第一副管長 トーマス・S・モンソン
- F4 分かち合いの時間—いいよ わか あ じかん シーラ・E・ウィルソン
- F6 いけすの箱 いけすの箱 ジェンズ・クリストファーセン
- F9 おもちゃばこ
- F10 ヒーバー・J・グラントだいかんちょうのしょうがいから
—でんどうのめし
- F12 作ってみよう—かていのあい つく
- F14 友だちになろう とも
—ハワイ州エワビーチに住むシャ・レー・カマウウ
リチャード・M・ロムニー

「いけすの箱」
「フレンド」6ページを
見ましょう。





モルモンの手によって ©ウォルター・レーン、複写は禁じられています

「神の羊の群れに入って」ウォルター・レーン画

アルマの民はバプテスマについて聞くと「それこそわたしたちが心から望んでいることです」と叫んだ。
……その数は204人ほどであった。そして、これらの人々はモルモンの泉でバプテスマを受け[た。]（モーサヤ18：11、16）

末日聖徒イエス・キリスト教会公式機関誌(日本語版)
大管長会:ゴードン・B・ヒンクレー, トーマス・S・モンソン,
ジェームズ・E・ファウスト

十二使徒定員会:ボイド・K・バッカー, L・トム・ベリー, デビッド・B・ヘイト, ニール・A・マックスウェル, ラッセル・M・ネルソン, ダリン・H・オークス, M・ラッセル・バラード, ジョセフ・B・ワースリン, リチャード・G・スコット, ロバート・D・ヘイルズ, ジェフリー・R・ホランド, ヘンリー・B・アイリング

編集長:ジェイ・E・ジェンセン
顧問:E・レイ・ベイトマン, モンティ・J・ブラフ, スティーブン・A・ウェスト

実務運営ディレクター:デビッド・フリッシュニク

企画編集ディレクター:ピクター・D・ケーブ

グラフィックディレクター:アラン・R・ロイボグ

機関誌編集ディレクター:リチャード・M・ロムニー

編集主幹:マービン・K・ガードナー

編集スタッフ:コレット・ネベカー・オース, スーザン・バレット, シャナ・ハトラ, ライアン・カー, リンダ・ステール・クーパー, ラリオン・ポーター・ガートン, ジェニファー・L・グリーンウッド, R・バル・ジョンソン, キャリー・カステン, メルビン・リービット, サリー・J・オデカーク, アダム・C・オーソン, ジュディス・M・パーラー, ビビアン・ポールセン, ドン・L・サール, レベッカ・M・テラー, ロジャー・テリ, ジャネット・トーマス, ポール・バンデンバーク, ジュリー・ワーデル, キンバリー・ウェズ, モニカ・ウィークス

実務運営アートディレクター:M・M・カワサキ

アートディレクター:スコット・バン・カンペン

制作主幹:ジェーン・アン・ヒーターズ

デザイン・制作スタッフ:ケリー・アレンブラット, ハワード・G・ブラウン, トーマス・S・チャイルド, レジナルド・J・クリステンセン, キャスリーン・ハワード, デニース・カービー, タッド・R・ヒーターソン, ランドール・J・ピクストン, カリ・A・トッド, クラウディア・E・ワーナー

マーケティング部長:ラリー・ヒラー

印刷ディレクター:クレグ・K・セジウィック

配送ディレクター:クリス・T・クリステンセン

●定期購読は、「リアホナ」注文用紙でお申し込みになるか、郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●「リアホナ」のお申し込み・配送についてのお問い合わせ……〒133-0057東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター 電話 03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30
電話 03-3440-2351

定価 年間予約/海外予約 2,400円(送料共)
半年予約 1,200円(送料共)
普通号/大会号 200円

「リアホナ」への投稿およびご質問は、下記の連絡先にお送りください。
Room 2420, 50 East North Temple Street,
Salt Lake City, UT 84150-3220, USA
電子メール:cur-liahona-imag@ldschurch.org

「リアホナ」(モルモン書に出る言葉「羅針盤」または「指示器」の意)は、以下の言語で出版されています。

アイスランド語, アルバニア語, アルメニア語, イタリア語, インドネシア語, ウクライナ語, 英語, エストニア語, オランダ語, 韓国語, カンボジア語, キリバス語, クロアチア語, サモア語, シンハラ語, スウェーデン語, スペイン語, スロベニア語, セブア語, タイ語, タガログ語, タヒチ語, タミル語, 中国語, チェコ語, テルグ語, デンマーク語, ドイツ語, トンガ語, 日本語, ルウエー語, ハイチ語, ハンガリー語, フィジー語, フィンランド語, フランス語, ガルシア語, ポルトガル語, ベトナム語, ポーランド語, ポルトガル語, マーシャル語, マダガスカル語, モンゴル語, ラトビア語, リトアニア語, ルーマニア語, ロシア語。(発行頻度は言語により異なります。)

©2004 Intellectual Reserve, Inc. 著作権所有。印刷:日本
「リアホナ」に掲載されている文章や視覚資料は、教会や家庭において臨時に、また非営利目的に使用する場合は複製することができます。視覚資料に関しては、作品のクレジットに制限が記されている場合に複製できないことがあります。ご質問は、Intellectual Property Office, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, UT 84150, USAに郵送するか、電話—1-801-240-3959, 電子メール—cor-intellectualproperty@ldschurch.org にご連絡ください。

英語版承認—1996年8月 翻訳承認—1996年8月
原題—International Magazines September 2004.
Japanese. 24989 300

「リアホナ」は、教会のホームページwww.lds.org (英語)に様々な言語で掲載されています。英語の場合は「Gospel Library」(福音図書館)をクリックしてください。その他の言語は世界地図をクリックしてください。

For Readers in the United States and Canada:
September 2004 no. 9 LIAHONA (USPS 311-480) Japanese (ISSN 1521-4729) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, UT 84150, USA subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$16.00 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah, and at additional mailing offices. Sixty days notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions and queries to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone. (Canada Poste Information: Publication Agreement #40017431)

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.

「リアホナ」の活用法

家庭の夕べのための アイデア



●「救い主のように教える」

26ページ——ウォルター・F・ゴンサレス長老は、救い主がお尋ねになった質問について話しています。救い主は、聞く者が御自分の教えをよく理解し、自分に当てはめることができるよう3種類の質問をされました。それぞれの種類から一つずつ質問を選び、次の家庭の夕べに取り入れてください。そうすることで、家族が前よりもレッスンを積極的になるか試してください。

●「死は新しい始まり」46ページ——

どの家族も、死と向き合わねばならないときがあります。靈感を受け、そうすべきだと感じるなら、神の計画における死の意味や死期について話し合ってください。また、神が時折、わたしたちの求める方法で祈りにこたえてくださらないのはなぜでしょうか。考えられる理由を話し合ってください。

●「啓示が必要な8つの理由」8ページ——

ダリン・H・オークス長老は、啓示の8つの目的を挙げています。啓示の目的に関する自分やほかの人の実生活で得た経験について家族に尋ねてください。

●「末日に初めて召された宣教師」

16ページ——預言者ジョセフの弟サミュエルは、伝道するときにモルモン書を使いました。サミュエルが渡した1冊のモルモン書によって、二人の人物が教会の会員となりました。後に第

2代大管長となったブリガム・ヤングと、副管長になったヒーバー・C・キンボールです。モルモン書の力について家族に話してください。モルモン書を読み、モルモン書が真実であるという証を持てるよう家族を励ましてください。サミュエル・スミスがしたように、モルモン書のことをほかの人に伝えるよう勧めてください。

●「家庭の愛」F12ページ——

この記事は、家族は愛の中で築かれ、労働と奉仕によって維持されるものであることを思い起こさせてくれます。この原則をもっと強められるように、記事に掲載されているアイデアを家庭の夕べで使ってください。

今月号に採り上げられているテーマ

Fは「フレンド」の略			
愛	25, F4, F12	従順	F6
証	14	初等協会	F4
哀れみ	20, 20	救いの計画	42
イエス・キリスト		聖文研究	42
	25, 26	聖霊	8, 30, F6
祈り	42	世界に広がる教会	
受け継ぎ	F2		38, F14
教えること	1, 26, 32	備え	F2
親の務め	2	堪え忍ぶ	36
改宗・改心	7, 14, 42	知恵の言葉	30
家族	2, 32, 36, 38, 42, F4, F12, F14	伝道活動	16, 42, F10
家庭の夕べ	1, 2, 32	同性愛	20
家庭訪問	25	徳	13
寛容	25	標準	2
逆境	42	奉仕	42
教会歴史	16, 47	ホームティーチング	6
悔い改め	2, 20	モルモン書	14, 16
啓示	8, 30	勇気	2, 42
幸福	F2	預言者	47, F10
死	42	労働	F4, F12
自制心	2, 13		



悪に 立ち向かう

大管長

ゴードン・B・ヒンクレー

ある晩、まだ読んでいなかった朝刊を手に取り、ページをめくりながらざっと目を通していました。映画館の案内欄が目に留まったのですが、その実に多くが人を堕落させるもの、暴力や不道德な性につながるものを見るように公然と誘うものでした。

郵便物を見てみると、翌週のテレビ番組の放送予定が掲載された小さな雑誌がありました。映画の場合と同じような内容の番組名の数々が目に入りました。机の上にはあるニュース雑誌が置かれていました。犯罪率の上昇を特集したものです。その中の記事には、警察の増強やより大きな刑務所を建てるために何十億ドルもの資金を追加したことが述べられていました。

ポルノグラフィーによる^{けが}汚れがあふれ、性や暴力が無秩序に強調されているのは、北アメリカに限ったことではありません。ヨーロッパでもその他の多くの地域でも、状況は同じようにひどいものです。この陰うつな光景のすべては、腐敗がまさに社会の性質そのものにしみ渡っていることを示唆しています。

道徳から逸脱した行為を法的に抑制する力は、立法機関による法律の制定と裁判所による見解の下で徐々に失われています。このことは言論の自由、出版の自由、いわゆる個人的

な問題における選択の自由という名の下に行われています。しかしこれらのいわゆる自由がもたらしている苦い実は、人を堕落させる習慣や行いの奴隷となることであり、それはただ破滅にのみつながっています。ある預言者は遠い昔にその過程を次のように的確に述べています。「悪魔はこのようにして人々をだまし、巧みに地獄に誘い落とすのである。」(2ニーファイ28:21)

その一方で、わたしはこの国やほかの国々に無数の善良な人々がいることに満足しています。大部分において、夫は妻に忠実であり、妻は夫に忠実です。その子供たちは謹厳と勤勉と神を信じる信仰のうちに育てられています。これらの人々の力があれば、状況は少しも絶望的なものなどではないと信じています。汚れや暴力がわたしたちをのみ込むのを何もせずに許したり、絶望のうちに逃げたりする必要はまったくないと確信しています。その潮流は実際に激しく、脅威的ですが、力を合わせれば押し戻すことができます。今述べたような人々の中から十分な数の人々が、その力を現在実際に努力しているごく少数の人々の力に加えるのです。この悪に立ち向かうというチャレンジは、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員が市民として避けることのできないものであ



**声を上げましょう。
耳をつんざくような声
ではなく、信念をもって
語りましょう。
それによって
語る相手に、
わたしたちの感情の
強さと努力の誠実さが
伝わるように
願っています。**

ると、わたしは信じています。

悪の潮流に立ち向かう取り組みについて、4つの出発点を提案したいと思います。

第1に、自分自身から始めましょう。世界の改革は自身の改革から始まります。「わたしたちは、正直、真実、純潔、慈善、徳高くあるべきこと……を信じる。」(信仰箇条1:13)これはわたしたちの信仰の基本を成す条項です。

自分が徳高い生活を送っていないならば、ほかの人々を徳に導くような影響力を持ちたいと願うことはできません。わたしたちの生活の模範は、わたしたちがやみくもに語るいかなる説教よりも大きな影響を及ぼすでしょう。自分自身が高いところに立っていないならば、ほかの人々を引き上げることはできません。

自身に対する敬意こそが人の徳の始まりです。自分が神の子であり、神聖な御父の形に似せて造られていて、神のような大いなる徳を行使する潜在性に恵まれていることを知る人は、すべての人がさらされているみだらで汚れた要素に対して自らを律するでしょう。アルマは息子のヒラマンにこう言いました。「神に頼って生きるようにしなさい。」(アルマ37:47)

主が山上で群衆に語った際に次の驚くべき宣言を含められたのは、大変興味深いことです。「心の

清い人たちは、さいわいである、彼らは神を見るであろう。」(マタイ5:8)

ある賢人はかつて次のように語っています。「正直な者となりなさい。そうすればこの世から悪い者が一人減るでしょう。」

またシェークスピアはその登場人物の一人に、次のような説得力のある勧告を語らせています。「なにより肝心なのは、自己に忠実であれということだ、そうすれば、夜が昼につづくように間違いなく他人にたいしても忠実にならざるをえまい。」¹

わたしはこれらの言葉を読むすべての男女に、思いを汚れよりも高く引き上げ、行いを律して徳の模範とし、言葉をコントロールして、心を高揚させ成長へと導くことだけを語るようにチャレンジしたいと思います。

では第2の出発点です。より良い明日はより良い世代を訓練することから始まります。このことから両親には子育てにおいてより効果的な働きをする責任が課せられています。家庭は徳が最初にはぐくまれる場所であり、人格が形成され習慣が確立される場所です。家庭の夕べは、まさに主の道を教える機会です。

子供たちはやがて字が読めるようになります。書籍を読むでしょうし、雑誌や新聞を読むでしょう。彼らの内に最良の書物を好む性質を培ってください。彼らが幼いうちに、その中で教えられている徳のゆえに不朽の名作となっているようなすばらしい物語を読んであげてください。良書に触れられるようにしてあげてください。たとえどれほどわずかなスペースであろうと、家のどこかに良書をそろえる場所があるようにしてください。そして、これまでに偉大な人々を育ててきた書物を少なくとも数冊は子供たちが見られるようにするのです。

家に有益な雑誌、教会やその他の人々によって出版されているもので、人を高める概念へと子供たちを促してくれる雑誌を置くようにしましょう。有益な家族向けの新聞を読ませ、あまりに広く見受けられる、品性を低下させるような広告や

文章にさらされずに世の中で起きている事柄を知ることができるようにしてください。町で有益な映画が上映されているときには、家族で映画館に行くことを検討してください。皆さんの応援こそが、このような種類の娯楽を製作したいと望む人々への励ましとなるのです。そしてあらゆるコミュニケーション手段の中で最も注目すべきものであるテレビを、子供たちの生活を豊かにするために活用してください。





有益なものは非常に多く存在しますが、選択が求められません。適切な家族向けの娯楽をテレビで放送する取り組みに責任を負っている人々に、有益なものへの感謝と、有害なものへの不快感を知らせましょう。ほとんどの場合、わたしたちは自分が求めるものを得ます。問題はわたしたちの非常に多くが有益なものを求めていることであり、またそれ以上に、それらに対する感謝を表していないことです。

家庭に音楽があるようにしましょう。もし皆さんに10代の子供がいて、自分自身の音楽カセットやCDを持っているならば、皆さんはその音を、「あんなのは音楽じゃない」などと考える傾向があります。時々彼らにもっと良いものを聞かせましょう。そのようなものに触れさせてください。そのような音楽は、それが価値あるものであることを自ら証^{あかし}してくれます。皆さんが思っている以上の鑑賞力がはぐまされるでしょう。それは口に出して語られることはないかもしれませんが、心に残り、その影響は時がたつにつれて徐々に明らかになってくるでしょう。

さて第3の出発点です。世論の高まりは少数の熱心な声から始まります。わたしは国会議員の面前で反抗的な態度で叫んだり、こぶしを振るって脅したりすることを支持する者ではありません。しかしわたしは、法律を制定して施行すると

いう重責を担っている人々に向かって、自分たちの信念を熱心に、誠実に、そして積極的に表明すべきであると信じています。悲しい現状はといえば、より大きな自由化を求め、ポルノグラフィを売り歩き、むさぼり読み、みだらな表現を奨励し、それを糧に生きている少数の人々が、自分たちの言うことこそ多数の意思を代表していると議会の人々が信じるまで意見を

述べていることです。わたしたちは、自分たちが声に出して求めないものを得ることはできないでしょう。

声を上げましょう。耳をつんざくような声ではなく、信念をもって語りましょう。それによって語る相手に、わたしたちの感情の強さと努力の誠実さが伝わるように願っています。驚くべき結果が、1通の的を射た手紙と1枚の切手から生じることがよくあります。驚くべき結果が、重責を担う人々との静かな会話から生じることがあります。

主はこの民に次のように宣言しておられます。

「それゆえ、善を行うことに疲れ果ててはならない。あなたがたは一つの大きいなる業の基を据えつつあるからである。そして、小さなことから大きいなることが生じるのである。

見よ、主は心と進んで行う精神とを求める。」(教義と聖約 64: 33-34)

「心と進んで行う精神」——これこそ最も重要な要素です。規制や規則や法律を制定する人々——地方や州、および国家レベルの政府機関の人々や、学校経営者として責任ある地位に就いている人々——と話をしてください。もちろん、門前払いをする人もいるでしょうし、嘲笑する人もいるでしょう。落胆することがあるかもしれませんが。これまでも常にそうでした。1783年、庶民院(イギリス下院)本会議場で、エドモンド・バークはある評判の良くない運動の提唱者を擁護して次のように宣言しています。

「彼は自分の道の周囲にどのようなわなが仕掛けられているかをよく知っています。……彼はその動機であると思われるもののために中傷と虐待を受けています。彼は非難を受けることがあらゆるまことの栄光を形作る中で欠くことのできない要素であることを思い起こすでしょう。彼は……中傷と虐待は勝利に不可欠であること……を思い起こすでしょう。」²

使徒パウロは、アグリッパの前で行った弁明の中で、ダマスコへ行く途中で

起きた彼の奇跡的な改宗の話をし、主の声が彼に「起きあがって、自分の足で立ちなさい」と命じられたことを宣言しました(使徒26:16)。

主はわたしたちに対して次のように言われるのではないかと思います。「起き上がって、自分の足で立ちなさい。そして真理と善良さと品位と徳を求めて声を上げなさい。」

最後に、第4の出発点です。闘いを勝ち抜くための力は、神の力の助けを得ることから始まります。神こそあらゆるまことの力の源であります。

パウロはエペソ人に向かって次のように宣言しています。

「最後に言う。主にあって、その偉大な力によって、強くなりなさい。

悪魔の策略に対抗して立ちうるために、神の武具で身を固めなさい。

わたしたちの戦いは、血肉に対するものではなく、もろもろ

ホームティーチャーへの提案

よく祈って準備した後、あなたが教える人々の参加を促すような方法を用いて、このメッセージを分かち合ってください。幾つかの例を以下に紹介します。

1. 家族に、地域社会において有益な娯楽を支持して意見を述べたことがあるかを尋ねる。また、そのような話題について友人や知人と話し合ったことがあるかを尋ねる。人を高める娯楽を支持するためにできることについて、アイデアを出し合ってもらおう。

2. ヒンクレイ大管長が紹介している『ハムレット』からの引用「なにより肝心なのは、自己に忠実であれということだ……」を読み、次に教義と聖約第121章45節の後半部分を「絶えず徳であなたの思いを飾るようにしなさい」の部分から読む。家族に、わたしたちが徳高い思いを保つときにどういう点で自分自身に忠実であると言えるか、また「そうするとき、神の前においてあなたの自信は増し」という聖句は、わたしたち個人にとってどのような意味があるかを尋ねる。

3. エドモンド・パークの言葉を読む。勇気の代価について話し、義にかなった大義を支持して意見を述べるのがいかに有益であるかを強調する。

4. 家族に、社会における悪との闘いを今始めるようにというヒンクレイ大管長の勧めを個人として心に留める方法を幾つか提案してもらおう。

の支配と、権威と、やみの世の主権者、また天上にいる悪の霊に対する戦いである。

それだから、悪しき日にあたって、よく抵抗し、完全に勝ち抜いて、堅く立ちうるために、神の武具を身につけなさい。」(エペソ6:10-13)

悪の潮流が流れ込んでいます。今日、それは紛れもない洪水となっています。わたしたちの大半は、幾分保護されて安全な生活を送っており、悪の潮流が途方もない規模を持ったものであることをほとんど理解していません。ポルノグラフィを氾濫させる人、みだらなものを売り歩く人、異常なもの、性と暴力を扱う人々の間で何十億ドルもの金銭が動いているのです。神はわたしたちに市民としてこれらに立ち向かい、徳を擁護して声を上げるための力と知恵と信仰と勇気を与えてくださっています。過去の例を見ると、人々がその徳を実践したときには民も国々も強まりましたが、無視したときには衰退しました。

神は生きておられます。神はわたしたちの力であり、わたしたちの助け手であります。わたしたちが努力するとき、善良な大勢の男女が仲間として加わってくるのをわたしたちは見るでしょう。今から始めようではありませんか。■

注

1. 「ハムレット」第1幕第3場。
『シェイクスピア全集』小田島雄志訳、白水社、第3巻、443
2. ジョン・F・ケネディー、
Profiles in Courage (1956年)、viで引用



家を見いだす

ある教会員のすばらしい働きを通して、
わたしはイエス・キリストの真実の福音の中に
家、すなわち心安らぐ場所を見つけました。

ローカス・ソアレス・ノブレ

わたしの母は、わたしが12歳のときに父と6人の子供を残して死んでしまいました。わたしたちの住んでいた地域では教育を受ける機会が乏しく、たいいていの人は4年生までの教育で満足していました。しかしわたしは自分の学業を終えるという夢をあきらめずにいたのです。

わたしが17歳でブラジルのサンタレンに移り住んだとき、その機会が訪れました。父が手配してくれたおかげで、わたしは父の知人たちのところに居候できるようになりました。そこで、わたしは学校に通って教科目の授業を受け始めました。しかし、自分で働いたお金では、学校で必要な教材をそろえるのがやっとなりました。

父の知人たちと住んだ最初の年に、彼らの教会に入るよう求められました。それ以来、何度も断

りました。3年目になっても、わたしはその教会には入っていませんでした。するとある日、わたしに別の所に住んでくれと言ってきたのです。わたしは途方に暮れました。

次の日は、仕事にも学校にも行きませんでした。そして、義理の母の友人が近くに住んでいたのを思い出し、彼女に話をしに行くことにしました。

マリア・ホセはわたしが着くと歓迎してくれました。状況を説明し終わると、荷物を取りに行き自分のところに住むようにと言ってくれました。彼女の親切には何か特別なものを感じました。

数日後、食事を用意しながら、彼女は自分の行っている教会の宣教師が昼食を食べに来るのだと言いました。彼女がとても善良な人なので、彼女の信仰がどのようなものなのか興味を持ちました。

昼食時に、リッグス長老とマルシオ長老と話をし、福音について学ぶ約束をしました。次の日の約束の時間までに、わたしはモルモン書を読み、それについて祈りましたが、特に何も感じませんでした。しかし、宣教師は話を始める前に、もしわたしが心を開くなら彼らの教えることが真実だと分かる約束してくれました。

彼らはそれ以上何も言う必要はありませんでした。それは、長老たちが福音について話している間に、この教会がイエス・キリストの教会だという強い気持ちを感じ、はっきりと分かったからです。3週間後、わたしは会員になりました。

その後わたしは、ブラジルのクリティーバ伝道部で専任宣教師として働きました。わたしは、この福音を愛するとともに、あの宣教師たちがわたしにしてくれたようにほかの人にしてあげられた機会を光栄に思っています。

わたしは、自分の決定により住む場所がなくなってしまったとしても、あの教会に入るわけにはいきませんでした。でも、住む家とキリストのような友人を見つけたことで、イエス・キリストの真実の教会を見つけたのです。■

ローカス・ソアレス・ノブレは、ブラジル・サンタレン・バラー地方部、タバジョース支部の会員です。



8

啓示が必要な つの理由

十二使徒定員会
ダリン・H・オークス



神が生きておられ、
御自分の
子供たちに実際に
啓示を与えて
くださることを
知っています。

わ たしの祖母，チャステイー・オルセン・ハリスは，若いとき，ユタ州キャッスルデールの家の近くにあった水のない川で，何人かの子供たちを遊ばせていました。彼女は突然，自分の名を呼ぶ声を聞きました。その声は，「子供たちを川底から土手に上げなさい」と言いました。天気の良い日で，雨が降る気配はまったくありません。その声に従う理由はないと思った祖母は，川底で遊び続けました。すると，また声が聞こえてきました。切迫した調子です。今度は警告に従い，急いで子供たちを集め，土手に向かって走り出しました。すると土手に上がると同時に，大量の濁流が押し寄せて来て，子供たちが遊んでいた場所をうなりを上げながら流れて行きました。何キロも離れた山で突然豪雨が発生していたのです。

啓示とは，神から人へ伝えられるメッセージです。様々な方法で与えられます。モーセやジョセフ・スミスのように，預言者の中には神と直接話した人もいます。天使と言葉を

交わした人もいます。そして十二使徒定員会のジェームズ・E・タルメージ長老（1862－1933年）が書いたように，「眠っている間の夢を通して，または目覚めている間に頭の中で見る示現によって」与えられる啓示もあります。¹

さらに一般的な啓示や靈感の中には，言葉や思いが心に浮かぶ（エノス1：10；教義と聖約8：2－3参照），突然思いが照らされる（教義と聖約6：14－15参照），行おうとしていることに対して積極的あるいは消極的な思いを抱く，演劇や音楽などの芸術から靈感を得るというものもあります。十二使徒定員会会長代理のボイド・K・パッカー長老はこう言っています。「靈感は音よりも感情として来る方が多いのです。」²

啓示が与えられる目的

これまでの経験を思い出ししてください。皆さんはすでに啓示を受けたことがありますし，これからもさらに多くの啓示を受けるこ

とができます。神は実際に人と語られるからです。ロレンゾ・スノー大管長（1814-1901年）は「日々の生活の中で御霊の現れを受けることは、すべての末日聖徒の大いなる特権である」と言っています。³

これから啓示の8つの目的について話していきますが、皆さんには、自分がこれまでどの程度啓示や靈感を受けてきたかを認識し、今後この霊的な賜物をさらに頻繁に用いるために、その賜物を培っていこうと決意できるよう願っています。

1. イエスがキリストであられ、福音が真実であると告げられる聖霊の証は、神から与えられる啓示です。

使徒ペテロが、イエス・キリストは生ける神の御子であると証したとき、救い主は彼を幸いな者と呼んで、こう言われました。「あなたにこの事をあらわしたのは、血肉ではなく、天にいますわたしの父である。」（マタイ16：17）

2. 預言は啓示の目的、または機能の一つです。

男女を問わず、自分の責任の範囲内において聖霊の導きの下に語っているとき、人は将来起こる事柄を預言するよう促されることがあります。預言者、聖見者、啓示者の職にある人は、教会全体に関する預言をします。例えばジョセフ・スミスは、アメリカの南北戦争に関する預言や（教義と聖約87章参照）、聖徒らがロッキー山中において強い民

になるという預言をしました。⁴ 預言は祝福師の召しの一部でもあります。わたしたちは皆、時折、預言的な内容の啓示を受ける特権にあずかり、将来与えられる教会の責任など、自分の将来について明らかにされることがあります。

まだ若かった祖母と、祖母が遊ばせていた子供たちは、「強く駆り立てる啓示」がなかったなら、濁流にのみ込まれていたことでしょう。



3. 啓示の目的の第3は慰めを与えることです。

このような啓示が、預言者ジョセフ・スミスがリバティーの監獄にいたときに与えられました。何か月もの間ひどい状況に置かれていた彼は、苦しみと孤独の中で、自分自身のことと迫害されている聖徒のことを思い起こしてくださいよう、主に嘆願しました。そして次のような慰めの言葉が与えられました。

「息子よ、あなたの心に平安があるように。あなたの逆境とあなたの苦難は、つかの間にすぎない。

その後、あなたがそれをよく堪え忍ぶならば、神はあなたを高い所に上げるであろう。あなたはすべての敵に打ち勝つであろう。」(教義と聖約121：7-8)

同じ啓示の中で主は預言者に、どのような悲しみや不当な扱いを受けようとも、「息子よ、あなたはこのことを知りなさい。すなわち、これらのことはすべて、あなたに経験を与え、あなたの益となるであろう」と宣言されました(教義と聖約122：7)。

慰めをもたらす啓示は、神権の祝福を通して与えられることもあります。祝福の際に述べられる言葉や、祝福のときに抱く気持ちを通して与えられるのです。

慰めをもたらす啓示のもう一つの例として、罪が赦されたという確信が挙げられます。悔い改めのすべての段階を踏んだ人に与えられるこの啓示は、罪の代価が支払われたこと、また神が悔い改めた罪人の祈りに耳を傾けてくださったこと、罪が赦されたことを確信させてくれます。

4. 慰めと密接な関係にあるのが、啓示の第4の目的、あるいは機能、すなわち**励まし**を与えることです。

わたしたちは生活の中で、落胆や不安、自分は不十分だという思い、霊的なマンネリ状態などから脱しなければならぬときがあります。聖文を読んだり、健全な音楽や絵画、文学を鑑賞したりすることから得られる励ましは、霊を高め、悪を拒み、善を行うように促してくれるため、わたしはそれも、啓示の重要な目的の一

つであると信じています。

5. 啓示の第5の目的は、知識を授けることです。

これには、祝福師の祝福や聖霊の導きの下に語られる説教やそのほかの言葉など、必要なときに語るべき言葉を授けてくれる靈感があります。主はジョセフ・スミスとシドニー・リグドンに、「あなたがたの言うべきことは、まさにそのときに、まことにその瞬間にあなたがたに授けられるから」、心の中に与えられる思いを、声を上げて語るよう命じられました(教義と聖約100：6。教義と聖約84：85；124：97も参照)。



また、御霊の静かなさやきを通して、必要な事柄が教えられる場合もあります。大切なものをなくした子供は、助けを求めて祈ると、どこを探したらよいか教えられます。職場や家庭において、また家族歴史を探究する際に問題にぶつかった人は、祈りを通して問題解決に必要な情報に導かれます。また教会のある責任に、主がだれを召すよう望んでおられるのか祈り求める指導者には、御霊が具体的に名を挙げて答えてくれます。よく耳にするこれらの事例に共通しているのは、人を導き教えるために、聖霊は教師もしくは啓示者としての働きを通じて、知識と真理を伝えておられるという点です。

6. 啓示の第6の種類または目的は、何かを**思いとどませる**ことです。

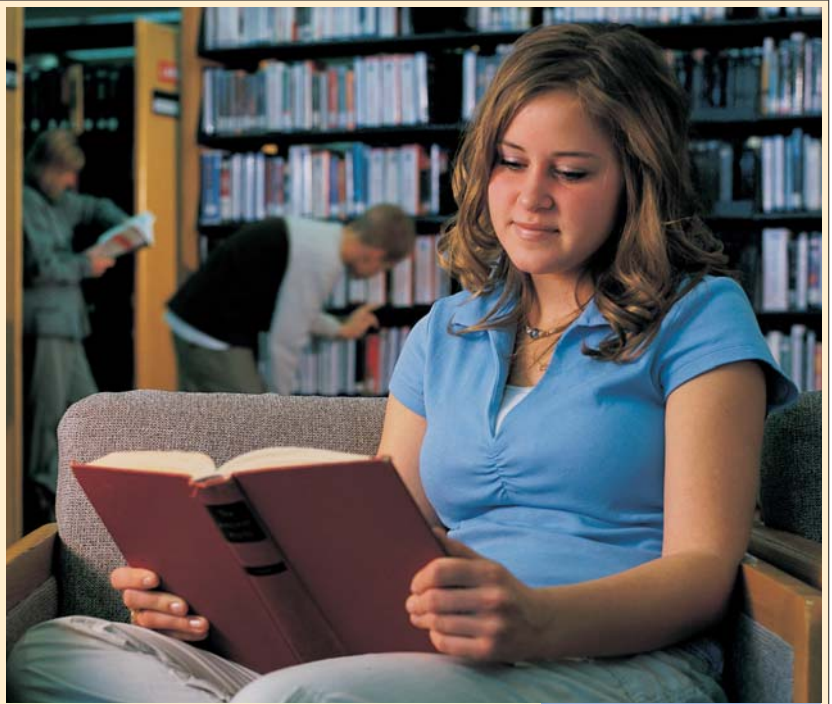
何々をしないようにという形の啓示は、最も頻繁に受ける啓示の一つです。この種の啓示はたいいてい、特に啓示や導きを求めているわけでもないのに、不意に与えられます。しかし、日ごろ神の戒めを守り、御霊と調和した生活をしているならば、この思いとどませる力が働きかけて、^{あやま}過ちを犯さないように導いてくれるでしょう。

7. 普通、啓示を求めるときは、まず自分なりの考えを決め、その後、それを**確認する**霊感が与えられるよう祈り求めます。

主は、オリバー・カウドリがモルモン書を翻訳しようとして挫折したときに、この確認を与える啓示について説明されました。

「見よ、あなたは理解していなかった。あなたはわたしに求めさえすれば、何も考えなくてもわたしから与えられると思ってきた。

しかし見よ、わたしはあなたに言う。あなたは心の中でそれをよく思い計り、その後、それが正しいかどうかわたしに尋ねなければならぬ。もしそれが正しければ、わたしはあなたの胸を内から燃やそう。それゆえ、あなたはそれが正しいと感じるであろう。」(教



義と聖約9：7-8)

十二使徒定員会のブルース・R・マッコンキー長老(1915-1985年)は啓示を求める前に、まず自分で最善を尽くすというわたしたちの責任を強調しました。「わたしたちは賜物、才能、能力、知覚、判断力、選択の自由など、与えられているものを活用するよう期待されています。……自分の力を使って、できる限りのことをして、それから、出した答えが正しいかどうか確認を求めて、主に祈るよう期待されているのです。」⁵

8. 啓示の第8の目的または種類は、御霊によって人が行動に**駆り立てられる**ときに示されます。

これは、人が自分の考えを提示して御霊から承認を得たり、思いとどまるよう告げられたりするというようなものとは異なります。何も求めていないときに啓示が来て、考えてもいなかった行動に駆り立てられるというものです。この種の啓示が与えられるケースはほかの種類に比べると非常に少数です。しかし、だからこそ重要なのです。

このような強く駆り立てる啓示がなかったならば、祖母と、祖母が遊ばせていた子供たちは、濁流にのみ込まれていたことでしょう。

**啓示は
リバティの監獄に
いた預言者ジョセフ・
スミスを慰めました。
「息子よ、
あなたの心に
平安があるように。
あなたの逆境と
あなたの苦難は、
つかの間にすぎない。」
慰めと密接な
関係にあるのが、
励ましを与える
啓示です。
それは、
聖文を読んだり、
健全な音楽や絵画、
文学を鑑賞したり
するときに得られます。**



みたま
**御霊と調和した
生活をし、導きを
求めているなら、
目的を達成するのに
必要な導きが
必ず与えられます。
永遠の幸福に
大きな影響を及ぼす
選択を迫られたとき、
主は必ず
導きの手を差し伸べて
くださるのです。**

啓示を受けないのはどのようなときか

最後に、どのようなときに啓示を受けることがないのかについて少し述べておきます。

まずわたしたちは「啓示に関する責任」という原則を理解しておかなければなりません。

ある人が自分の責任範囲外の人に関する啓示を受けたと主張してきた場合、例えば、ある教会員が教会全体を導くための啓示を受けたと主張したり、教会の秩序から見て自分が管理する立場にない人々を指導する啓示を受けたと主張したりするような場合、それらは主から与えられたものでないことがはっきり分かります。

求めたからといって、必ずしも靈感や啓示が与えられるとは限りません。後になってから啓示が与えられるときもありますし、判断を任せられるときもあります。霊的な事柄を強制することはできません。主にゆだねなければならないのです。もし天の御父がすべてのことについて人に指示を与えられるなら、重要なことであればなおさら、経験を積み、信仰をはぐくんでいくという人生の目的は無駄になってしまいます。わたしたちは自立心と信仰を養うために、自ら決定し、その結果を受け止めなければならないのです。

非常に重要だと思える事柄についてさえ、祈りの答えが与えられないときがよくあ

ります。しかし、祈りが聞かれていないというわけではありません。何らかの理由で、その問題については、啓示の導きを受けずに自分自身で結論を出さなければならないということなのです。それは恐らく、選択肢のどちらを取っても可、あるいは不可とされるものだからなのではないでしょうか。

同様に、あまりささいな事柄についても、主の御霊による啓示は与えられません。

もしほとんど、あるいはまったく問題のない事柄なら、自分自身の判断力を用いなければなりません。もしその選択に、わたしたちの知らない何か重要な意味があるならば、主が導きを与えてくださいます。御霊と調和した生活をし、導きを求めているなら、目的を達成するのに必要な導きが必ず与えられます。永遠の幸福に大きな影響を及ぼす選択を迫られたとき、主は必ず導きの手を差し伸べてくださるのです。

神が生きておられ、御自分の子供たちに実際に啓示を与えてくださることを知っています。わたしたちがふさわしく、熱心であり、神の祝福によってこの啓示の原則において進歩することができますよう祈ります。■

1981年9月29日、ブリガム・ヤング大学で行われたデイポーショナルの説教から、『聖徒の道』1983年12月号に掲載

注

1. *The Article of Faith*, 第12版 (1924年), 229
2. 「祈りと答え」『聖徒の道』1980年3月号, 28参照
3. *Conference Report*, 1899年4月, 52
4. *History of the Church*, 第5巻, 85参照
5. "Agency or Inspiration - Which?" *Speeches of the Year, 1972-73* (1973年), 108, 113

思いの レベルを 上げましょう



あなたの思い、上へ向かっていますか？
(ペリピ4:8参照)

やっと 分かりました

ファビオ・エンリケ・N・ダ・シルバ

教会について初めて聞いたのは1995年の6月で、わたしは13歳でした。自分がどこから来て、死後どこへ行くのかずっと知りたいと思ってはいたものの、どの宗教にも答えを求めたことは一度もありませんでした。時が来れば分かると思っていたからです。

ある晩、兄を交え、何人かの友人と集まって話をしていると、末日聖徒イエス・キリスト教会の二人の宣教師が通り過ぎて行きました。わたしたちの会話は宗教へと話題が移り、いところがその宣教師たちから福音を学んでいて、とても興味深い話だと言いました。彼女はモルモン書とジョセフ・スミスという名前の人について話してくれました。モルモン書という言葉聞いて関心を持ったわたしは、その本を見せてほしいと頼みました。いここは「その本が見たい人は、明日宣教師がうちに来るから、もらおうといいわ」と言ったので、兄とわたしはそのとおりにしました。

約束の時間に、わたしたちはいとこの家に行って話を聞き、たくさんの質問をしました。そのメッセージを聞いてとても良い感じを受けたわたしは、宣教師の言ったことはほんとうのことだと確信しました。御霊みたまがその言葉は真実だと証あかししてくれたのです。その夜、兄

モルモン書について聞いたとき、心が引き込まれるのを覚えました。祈りを通して、御霊みたまはモルモン書が真実であることを教えてくれました。

とわたしはモルモン書を受け取りました。

それから宣教師たちはわたしたちの家に来て、最初の話をしてくださいました。そしてわたしたちにこう勧めたのです。「モルモン書が真実かどうか分かるように、天の御父に祈ってくださいますか。」わたしたちは二人ともうなずきました。

最初の晩は寝る前に祈ってはみたものの、ひどく疲れていて、答えを待つ余裕もなく眠り込んでしまいました。2日目の晩も祈りましたが、答えは受けませんでした。次の晩、もう一度祈ってみました。宣教師が教えてくれたことを感じたかったからです。「わたしはあなたの胸を内から燃やそう。それゆえ、あなたはそれが正しいと感じるであろう。」(教義と聖約9:8) わたしは祈り、そして待ちましたが、答えは得ませんでした。それでも、いつか必ず答えを受けると確信してベッドに入りました。

翌日は月の第1日曜日で、わたしたちは教会へ行きました。そのとき、特別な経験をしたのです。日曜学校の時間、わたしはこれまで一度も感じたことのない、とても幸せな気持ちを味わいました。聖餐会せいさんが始まると、証を述べたいと思いましたが、勇気が出ませんでした。でも、モルモン書は真実だと確信したのです。

兄とわたしは、福音を受け入れることに何の抵抗も感じませんでした。わたしたちにはモルモン書に対する証がありましたし、ほかに宣教師が教えてくれたことで誤りなど一つもないことを知っていました。

この証は、わたしたちが教会に活発であり続けるためになくてはならないものでした。というのも、多くの試練が待ち受けていたからです。母はわたしたちが教会へ行くことは止めないまでも、バプテスマを受けることは許しませんでした。わたしたちは、教会とセミナーに欠かさず出席しました。学校では、今まで友人だったはずの人々から迫害されるようになりました。つらいことでしたが、これらの経験によってわたしの証は強まりました。

7か月後、一人の宣教師が、バプテスマを受けられるように一緒に断食しようとチャレンジしてきました。断食を終えると、宣教師たちはわたしの家に来て母に話をしてくれました。するとどうでしょう。母は兄とわたしがバプテスマを受けることを許してくれたのです。

試練は人を強めてくれます。

兄とわたしは今も教会に活発です。二人とも専任宣教師としての召しを果たしました。モルモン書

を読み、教会へ行き、インスティテュートに出席し、天の御父に祈り、断食し、戒めを守るとき、わたしは証を堅固に保つことができます。

今になってやっと、なぜ宣教師が求道者にモルモン書の証を得られるように祈ってほしいと思っているのか分かりました。モルモン書なくしては、わたしが真実の教会を見つけることも、疑問の答えを得ることもできなかったからです。■

ファビオ・エンリケ・N・ダ・シルバはブラジル・フォルタレザ南ステークのパスサレワードの会員です。



末日に初めて 召された宣教師



末日に
初めて召された
宣教師には当時
分からなかった
が、その働き
のおかげで
二人の偉大な
指導者が
教会に導かれる
こととなった。

ライアン・カー
教会機関誌

もし皆さんがたった一人で伝道しなければならなかったら、どうでしょう。同僚もなく、宣教師訓練センターで訓練を受けることもなく、レッスンプランもありません。唯一頼れるものは、自分の証と、御霊と、モルモン書だけです。あなたならどうしますか。

サミュエル・スミスは、まさにそのような状態でした。サミュエルは末日聖徒イエス・キリスト教会最初の正式な専任宣教師です。預言者ジョセフの弟で、最初の伝道に召されたとき22歳でした。ニューヨーク州パルマイラ近郊の町へ向かって一人で歩いていたときに持っていたものは、刷り上ったばかりのモルモン書をいっぱい詰め込んだナップサックだけでした。

サミュエルが幼いころから、スミス家の人たちは聖書を学び、家族の祈りをささげていました。10代のころサミュエルは回復の業が進んでいることを知っていました。夜になると家族と一緒に、ジョセフが話してくれる救いの計画や、「神がジョセフに明らかにしてくださった偉大で輝かしい事柄」を聞きました。¹

サミュエルは21歳のとき、ペンシルベニア州ハーモニーを訪れました。兄ジョセフとオ

リバー・カウドリがモルモン書の翻訳をしていた所です。サミュエルが到着する数日前の1829年の5月15日、ジョセフとオリバーはバプテスマのヨハネからアロン神権を授かり、新しく授かったその権能により互いにバプテスマを施し合いました。

ハーモニーでジョセフは、翻訳したモルモン書の一部をサミュエルに見せ、「時が満ちてまさに現れようとしているイエス・キリストの福音について熱心に説きました。」

ジョセフの記録によると、サミュエルは「教えられたことがなかなか信じられなかった」ようです。そこでサミュエルは森に入り、ひそかに熱烈な祈りをささげました。自分で判断できるように、憐れみ深い神に知恵を祈り求めました。その結果、サミュエルは自身で啓示を受けたのです。²

1829年5月25日、サミュエルはバプテスマを受けました。この神権時代にジョセフとオリバーに次いで儀式を受けた3人目となりました。同じ年のうちに、サミュエルは「八人の証人」の一人となり、金版に触れる特権を得ました。翌年春の1830年4月6日に教会が正式に組織されたときには、6人の創設者の一人になりました。福音を伝えるために働いて

いる人たちがほかにもいましたが、1830年6月、ジョセフは最初の正式な専任宣教師としてサミュエルを召しました。

伝道地へ

伝道最初の日にサミュエルは40キロの道のりを歩きました。4軒の家を訪問しましたが、モルモン書を買う人は一人もいません。空腹で、疲れ、落胆したサミュエルは、その晩ある宿に泊まることにしました。サミュエルは宿の主

人にモルモン書を買わないか聞いてみました。

「さあ、どうするかな。おまえさんはどうしてその本を手に入れたのかね」と宿屋の主人は尋ねました。

「兄が地中に埋めてあった金版を見つけて翻訳したのです」とサミュエルは説明しました。

「このうそつきめ！ 出て行け。そんな本を持っているなら、1分だって置いておくわけにはいかん」と宿屋の主人はどなりました。そこで、教会初の宣教師はリンゴの木の下で



絵／ロバート・T・バレット



**1830年、
預言者ジョセフの弟
サミュエルは
ニューヨークの
ある農家を訪れた。
そこでローダ・
グリーンという女性
(ブリガム・ヤングの
きょうだい)に
出版されたばかりの
モルモン書について
あかし
証をした。**

冷たい湿った土の上に寝ることになってしまいました。³

翌日の朝サミュエルは、朝御飯をごちそうしてくれた、夫に先立たれた貧しい女性にモルモン書を上げました。それから13キロほど歩いて、ジョン・グリーンというメソジスト派の牧師に会い、モルモン書を渡しました。グリーン氏はただ、知り合いにだれか買いたい人がいるかもしれないと思って持って行っただけでした。妻ローダのきょうだいにブリガム・ヤングがいましたが、このときブリガムはまだ教会を知らませんでした。

2週間ほどしてサミュエルがグリーン氏の家にもう一度行ってみると、モルモン書を買いたいと思う人は見つからなかったことが分かりました。そこでサミュエルは何か月かたってからまた来ることにしました。また行ってみるとグリーン氏は留守でしたが、奥さんはモルモン書を読んで「とても喜んでい

る」と話してくれました。御霊みたまに促されて、サミュエルはそのままモルモン書を置いていくことにしました。彼女は感謝の気持ちで

いっぱいになり、「わっと泣き出してしまいました。」そのときサミュエルは、「この本を読むいちばん良い方法を教えました。……それは、読んだ後、それが真実かどうか分かるように祈ることでした。そうすれば、神の御霊により、神のことが分かるようになる」と説明しました。』⁴

後にグリーン夫人は夫にもモルモン書を読むように勧めました。彼がモルモン書を読んでから間もなく二人はバプテスマを受けました。

未来の預言者の改宗

1830年、サミュエルはブリガム・ヤングの兄フィニアス・ヤングにもモルモン書を買いました。メソジスト派の説教者でした。フィニアスが初めてサミュエルに会ったのは、説教旅行から馬に乗って帰る途中、夕飯を食べに立ち寄ったある農場でのことでした。農場の家族と話していると、質素な格好をした若者が部屋に入って来ました。若者は手に本を持って、フィニアスに言いました。「読んでいただきたい本があります。」



モルモン書を受け入れる

「〔モルモン書〕を受け入れることは、キリストを受け入れることです。なぜなら、この

書物にはキリストの言葉が載っているからです。……

また、この靈感された書物を受け入れることは、イエス・キリストの福音を受け入れることです。それは、この書物にはイエス・キリストの完全な福音が収められているからです。……

最後に、モルモン書を受け入れることは、ジョセフ・スミスの神聖な預言者の召しを受け入れることです。〔モルモン書〕は、ジョセフ・スミスの召しが真実であることの神聖な証拠なのです。」

十二使徒定員会 ジョセフ・B・ワースリン

“The Book of Mormon: The heart of Missionary Proselyting,” *Ensign*, 2002年9月号, 14



「何の本ですか。」フィニアスは尋ねました。

「モルモン書です。金の聖書とも言われています。」

「ああ、例の啓示の書ですね。」

若者は、「三人の証人」の証と「八人の証人」の証のページを開いて言いました。「ここにこの本が真実だという証人たちの証が載っています。」

そこで、フィニアスはその人たちの証を読みました。フィニアスが本から顔を上げると、若者は言いました。「もしあなたが祈りを込めてこの本を読み、神に証を求めらば、この業が真実なものだと分かるでしょう。」

フィニアスは本を読むと約束しました。そして若者の名前を尋ねました。

「サミュエル・H・スミスです。」

フィニアスはその名前をさっき見たばかりでした。「それでは、あなたは証人の一人なんですか。」

「はい、わたしはこの本が神から与えられた啓示であり、聖霊の力で翻訳されたことを知っています。兄ジョセフ・スミス・ジュニアは、預言者、聖見者であり、啓示者です」とサミュエルは言いました。

家に帰るとフィニアスは妻に言いました。「モルモン書という本を手に入れたんだ。啓示だというわさだよ。だから読んで間違いを探して、それを世間に知らせようと思うんだ。」

約束どおりフィニアスはモルモン書を読みました。2週間で2回も読んだのです。間違いを見つけようと思ったのが、反対にその書物が真実であることが分かりました。日曜日に、彼の教会の信者たちにその書物についてどう思うか聞かれると、「フィニアスは、10分間その書物が正しいと主張したところで、突然神の御霊に動かされました。御霊が強かったので、驚くほど雄弁にモルモン書の大切さを詳しく説明しました。……話の最後にはモルモン書を信じ

ると公言していました。」⁵

その夏、ブリガムをはじめヤング家の人たちと、その友人であるキンボール家の人たちはモルモン書を読み、それが真実であると信じました。

ナップサックをいっぱいにする

末日に初めて召された専任宣教師はだれにもバプテスマを施すことなく、ただモルモン書を数人に紹介しただけでした。当時サミュエルは、そのうちの2冊によってたくさんの信仰深い会員が教会に導かれることになるとは知りませんでした。その中にはブリガム・ヤングとヒーバー・C・キンボールもいました。ブリガム・ヤングは1844年から1877年まで教会を管理し、ヒーバー・C・キンボールは1835年から1868年まで使徒として働きました。

サミュエルのように、あなたもナップサックをモルモン書でいっぱいにすることができます。そして人々に紹介し、証を述べるのです。サミュエルの短い伝道からも分かるように、モルモン書を読んでだれが

心を動かされるのか、いつも分かるとは限りません。しかし、モロナイの約束を信頼することができます。だれでもモルモン書について誠心誠意祈るなら、神は「これが真実であることを、聖霊の力によって〔彼らに〕明らかにしてくださる」のです（モロナイ10：4）。■

注

1. ルーシー・マック・スミス, *History of Joseph Smith*, プレストン・ニブレー編 (1958年), 82
2. *History of the Church*, 第1巻, 44
3. サミュエル・スミスの最初の伝道に関する説明は *History of Joseph Smith*, 168-171, 187-188から引用
4. *History of Joseph Smith*, 187
5. フィニアス・ヤングの体験はS・ディルワース・ヤング “Here Is Brigham . . .” (1964年), 50-52から引用



教会に戻ったとき、
ワードの
会員たちに
迎え入れてもらえるか
心配でした。

苦しむ 人々への哀れみ

友情と哀れみの気持ちは
同性に引かれる性質に悩む人々を
強めることができます。

匿名

旧 約聖書に出てくるハンナの靈感あふれる物語は、子供を産めないことによって通常の家族関係を一時的に築けない人の苦悩を表しています。「主がその胎を閉ざされた」という理由で夫のほかの妻にあ

ざけられ、ハンナは「心に深く悲しみ、主に祈って、はげしく泣いた」とあります(サムエル上1:6, 10)。欽定訳聖書でこの聖句に付けられた脚注には、「心に深く悲しみ」という言葉(訳注——欽定訳聖書でこの箇所は“bitterness of soul”「心の痛み、苦々しさ」となっている)が、怒るでもすねるでもなく、文字どおり悲しんだことを意味していると説明されています。

今日の教会にも、家族生活の喜びを十分に経験することができないために「心に深く悲し[んでいる]」人たちがいます。不妊が理由で

はありません。結婚の適切な機会がなかったからでもありません。性的な嗜好のため、今のところまだ家族を持たずにいる人たちです。

同性に引かれる性質を持つ人たちですが、戒めに従った生活をしようと誠心誠意努力している教会の兄弟、姉妹です。同性愛も一つの生き方として受け入れるべき選択肢であるという、今の考え方を拒否している人たちです。心が何に引かれるかによって人を区別すべきではないと認識し「同性愛者」というレッテルをはられるのを拒み、キリストの御名を受けようとしている人たちです。

わたしもその一人です。

堪え忍ぶことを通して大いなる者とされる

この厳しい状況に直面するわたしたちにとって、義にかなった生活を送る方法が一つだけあります。それは、婚姻関係に見いだされるパートナーシップと円満さという、ほとんどの人が渴望するものを手に入れることを遅らせるか、あるいはそれがなのまま生活するという方法です。わたしはこの現実から来る激しい孤独感の中で、寂しさを埋め合わせる交わりが、わたしを包んでくださる救い主の腕と贖いの中にあるのを見いだしました。そのようなとき、「わたしの恵みはあなたに対して十分である」という救い主の言葉は(2コリント12:9)、新たに深い意味を帯びるのです。

キリストに従い、結婚や家族に関する主の教えに従いたいと強く願いながら、教えに反する性的嗜好があるために従えないというのは非常につらいものです。わたしは絶望するとよく、教義と聖約第58章2節から3節にある主の約束に慰めを得ています。

「生きるも死ぬも、わたしの戒めを守る者は幸いである。艱難かんなんの中で忠実な者の受ける報いは、天の王国においてもっと大きい。

あなたがたは、この後に起こることに関するあなたがたの神の計画と、多くの艱難の後に来る栄光を、今は肉体の目で見ることができない。」

同性に引かれる性質を抑えようともがいている教会員の多くがどのような困難に直面し、何を必要としているのかについて、経験を通して説明したいと思います。友人や家族、教会員が理解と哀れみの気持ちを深めてくれることは、誘惑に身をゆだねまいとしているわたしたちにとって力強い防護壁になるからです。

人の選択肢は、誘惑を受けるかどうかではなくどう対処するかである

同性に引かれる性質を持つ聖徒がこの問題を人に知らせることはあまりありません。わたしにとっては、この苦悩は主と監督、それに、親しく理解ある少数の友人だけが知っていればいいことです。

しかし時には、だれかがこの悩みを抱えていることに家族やワード、支部の会員が気づくこともあるでしょう。わたしの場合は、だれかに気づかれていたかもしれませんが、自分の行く末がどうなるか分からないというこの苦悩を軽視するような冗談やうわさ話を、これまで教会での交わりの中で一度も経験したことはありません。そのことに感謝しています。十二使徒定員会のダリン・H・オクス長老もこう言っています。「同性愛の問題で苦しんでいる人々……は愛と励ましを特に必要としている人々であり、しかもそのような人々を愛し励ますことは、……教会員の明白な責任で……す。」¹

わたしたちは、このような性的嗜好かつどうを選択した「異常者」と見られるのではないかと人知れず葛藤あかししています。この問題に苦しむ多くの末日聖徒について言えば、彼らが真理から懸け離れたところは何もありません。ある人はその著書でこう書いています。「末日聖徒イエス・キリスト教会の神聖な起源に強い確信を持つ人が、苦しい葛藤をしてまでその証に反する選択をすることがあり得ようか……。同性愛願望は教会の会員を苦境に追い込むため、それを選択する人はまずいない。しかしこの試練は、証に雄々しい会員にも降りかかる。」² わたしたちが選択するのは、誘惑を無視するか、もしくは屈するかであって、誘惑されるか、されないかではありません。

逆に言えば、選択の自由の教義は、生物学的あるいは生理学的な見地から言われている原因を根拠に同性愛の行為を正当化しようとする世の試みとは相反しています。オクス長老はこう語っています。「一度責任能力のある年齢に達したならば、『生まれつきそうなんだから』という主張をもって神の戒めに合致しない思いや行いを正当化することはできません。わたしたちは死すべき肉体から来る弱さが永遠の目標の達成を阻むことのないように、生活の仕方を学んでいかなければなりません。」³

「主にとって不可能なことがありますか」という問いを投げかけられた主は(創世18:14)、同性に引かれる性質を治められるよう必ず助けてくださいます。

悔い改めに伴う恐れ

同性愛の行為を悔い改めようと決心したばかりのころ、監督の反応がとても心配でした。「愛想をつかさだろうか、それとも怒るだろうか。罪を犯したことですでに落ち込んでいる気持ちが、もっと追い込まれてしまうのではないだろうか。」そう思ったのです。

そのような悩みを知られることを恐れ、何か月も悔い改めの過程を進めることを遅らせていました。しかしようやく監督の面接を受けたとき、監督はわたしの罪悪感をさらに募らせることはせず、その代わりに、「もしあなたがたが心の変化を経験しているのであれば、また、贖いをもたらす愛の歌を歌おうと感じたことがあるのであれば、今でもそのように感じられるか尋ねたい」というアルマの言葉のように(アルマ5:26)、群れに戻るよう招いてくれました。監督が告白を冷静に、霊的な態度で聞いてくれたおかげで、わたしは監督が愛し助けてくれる人であることを知り、それから後は、もっと楽な気持ちで面接を受けに行くことができました。監督のキリストのような態度は、悔い改めをする力となりました。

監督の面接が心配だったのと同じぐらいに、自分はふさわしくないという気持ちもありました。正しい生活を送り、わたしが犯したような罪にふけることもなかった人々と教会で同席するのに引け目を感じたのです。教会に戻った最初の日曜日、皆がわたしの心を見透かして、どのような罪を犯し何に苦悩しているのか分かってしまうのだろう、と思い込んでいました。

しかし、ワードの会員たちが愛をもって迎え入れてくれたとき、緊張はほぐれていきました。あまり活発でない会員だったわたしが、ワードに戻っても「あまり受け入れられない会員」になっただけだとしたら、悔い改めははるかに難しかったでしょう。

支え、愛してくれる末日聖徒の友人や家族は、悔い改めの過程できわめて重要な存在です。数人の旧友に苦しみを打ち明け、助けを求めようとしたとき、拒絶されるのではないかと心配でした。しかし、誘惑を受けたことを理由に救い主が人を拒絶なさることなど決してないように、弱点があるからといってわたしを見捨てた友人は一人もいませんでした。わたしが誘惑を受け過ちを犯したことを知って、友人たちは失望したかもしれませんが、その失望を慈愛の気持ちに変えてくれました。この慈愛について、エズラ・タフト・ベンソン大管長(1899-1994年)は次のように説明しています。「わたしは、神のすべての子供たちを愛しています。どのような人に対しても、

わたしは少しも悪い感情を持っていません。あなたに対してもそうです。わたしは罪を憎みますが、罪人は愛しています。悔い改めの必要がない人など、いないのですから。」⁴

自分の状況にすっかり気落ちしているときにも、よく話を聞き、励ましてくれるこれらの友人がいて、わたしはほんとうに祝福されています。預言者ジョセフ・スミスを慰め、高めた次の言葉は、わたしをも慰め、高めてくれました。「あなたの友人たちはまことにあなたの傍らに立っている。そして、彼らは温かい心と親しみのある手をもって、再びあなたを歓呼して迎えるであろう。」(教義と聖約121:9)

誘惑は背きではない

同性愛の傾向がある者は例外なく道徳的に墮落していると思う人がいます。しかし、わたしが自分に何度も言い聞かせているように、悔い改めて戒めに従った生活をしようと熱心に努力しているのですから、ほかの義にかなった末日聖徒と同じようにふさわしく、召しを果たし、神殿で奉仕し、聖餐を受け、教会で話の責任を引き受け、レッスンを教え、神権を受けることができるのです。十二使徒定員会会長代理のボイド・K・パッカー長老はこう述べています。「誘惑に負けず行動しなければ、罪悪感を持つ必要はありません。」⁵

道徳的な弱さを抱える一方で、わたしたちの多くは逆境を通して霊性を高めています。⁶ これは天の御父と救い主に真に近づくための戦いです。完全に御二方に頼ることができなければ勝利はないからです。次の救い主の言葉は、わたしに向けて言われたかのようなようです。「丈夫な人には医者はいらない。いるのは病人である。」(マタイ9:12)

アルコールやたばこ、ポルノグラフィ、ギャンブル、またはほかの重大な罪の誘惑に陥っている人がいるかもしれませんが、重大な背きの誘惑を受けていないとしても、皆、毎日誘惑を受けます。そして、大小の誘惑を受けている人たちを、誘惑を受けているという理由だけで不道徳だとは考えません。オークス長老も注意を促してこう言いました。「わたしたちは、罪深い行いと不適切な思いまたは危険性をはらんだ感受性との間の違いを常に明確にしておかなければなりません。わたしたちは、誘惑に抵抗しようとして苦しんでいる人に愛をもって手を差し伸べなければなりません。」⁷

わたしは祝福されて、表面的なイメージではなく本質を見られる人々と接することができます。本質を見ることで、彼らは救い主の模範に従っているのです。「[主]が見るところは人とは異なる。人は外の顔かたちを見、主は心を

見る。](サムエル上16:7)

どのような誘惑を受けるかにかかわらず、天の御父のもとに至る橋を築くためには、すべての人が救い主の贖いに頼らなければなりません。だれも、それを一人では成し遂げられません。

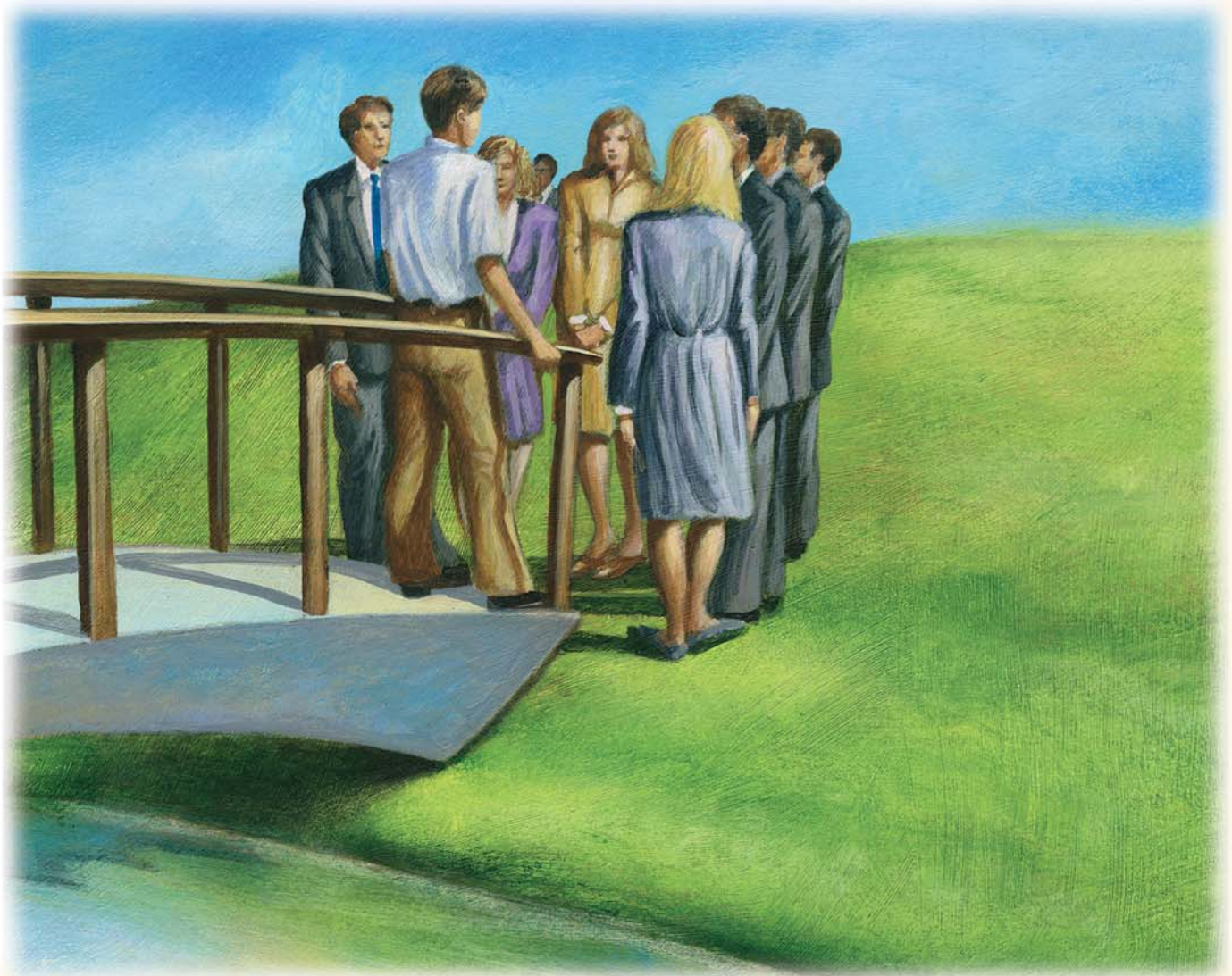
個人によって異なる時期

同性に引かれる性質を克服しようと努力しているときにいちばん当惑することの一つが、教会員や家族から、なぜまだ結婚しないのかと聞かれることです。しかし、それよりつらいのが「あなたにぴったりのデートの相手がいる

んだけど」という恐ろしい言葉を聞くときです。

過去の不適切な感情を清算する方法として、異性の会員とのデートを歓迎する人もいるかもしれません。しかし、デートに対して今はまだ違和感を抱くわたしのような人もいます。デートをせき立てられると、勧めてくれた人の意に反して、結果として苦痛は深まり、気落ちしてしまうかもしれません。それでもいつかは、この性的嗜好を十分に抑えることができ、デートに向けたステップを弱いながらも一歩踏み出したいと願っています。しかし、時期や相手を押し付けることなく、わたしが自分で行動

支えてくれた
末日聖徒の
友人たちの
おかげで前向きに
なることができ、
良い選択をする助けが
得られました。



するまで待つてほしいと思います。

単にデートをし、結婚することで同性に引かれる性質を「治す」ことができるという人もいます。しかし、ゴードン・B・ヒンクレー大管長はこの考えを退けてこう言いました。「結婚を、同性愛の傾向や習慣を治癒する一手段と見なしてはいけません。まず最初に、もう二度とそのような習慣に陥らないという確固とした決意をもって克服しなければならぬのです。」⁸

同性愛願望のある人がデートや結婚に適應できるかどうかは、主の助けを受けながらこのような嗜好をどれだけ克服したかに懸かっています。この努力は簡単でもなければ、すぐに結果が出るものでもありません。その過程を皆さんが忍耐をもって見守ってくれるとき、わたしたち自身もいっそう忍耐強く、問題に取り組んでいくことができます。主流のメディアが与える印象とは異なり、多くの人が同性に引かれる性質を克服しています。⁹しかし、ある人たちにとっては、「自分を捨て、自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい」と言われた救い主の言葉に喜んで従うことを証明するための(マタイ16:24)、生涯をかけた試しとなるかもしれません。¹⁰

独身者が孤独にならないように助ける

友人や教会員が結婚相手を探してくれること以上に、わたしたちにとってははるかに有意義なことがあります。それは、多くの人たちが惜しみなく与えてくれる時間と親しい交わりです。何組かの夫婦は、家庭の夕べをはじめ様々な活動に招き入れ、人づきあいの中にわたしを加えてくれます。こうして彼らは、わたしが誘惑を受け、孤独なときに、助け、支えとなってくれます。彼らは、あらゆる種類の魚を囲み入れる網を下ろすように、という救い主の勧告を実践しているのです。

「あなたがたが自分を愛する者を愛したからとて、なんの報いがあるか。そのようなことは取税人でもするではないか。

兄弟だけにあいさつをしたからとて、なんのすぐれた事をしているだろうか。」(マタイ5:46-47)

わたしが時折抱く間違った思い込みの最たるものは、家族や結婚に関する教会の教えから来る疎外感です。いろいろな家族と時間を共有することで、わたしにも家族に関する教義の中に居場所があるのだと感じます。わたしを受け入れてくれる家族も、時間を分かち合うことで「重荷が軽くなるように、互いに重荷を負い合うことを望[む]」ように戒められている弟子としての義務を果たすことになります(モーサヤ18:8)。

義にかなった友人やその家族との時間は、正しい選択を

する重要な助けにもなっています。いちばん寂しさを感じるのは、不適切な相手に目を向けるように強い誘惑を受けているときです。そのような人とはなく、福音に従った家族と交わることで、より良い道を選ぶ助けを得、家族の祝福を味わうことができるのです。その祝福もいつの日か、忠実さによってわたしのものになることでしょう。

悲しみを喜びに変える

義にかなった友人や家族のだれかが同性に引かれて悩んでいると分かっても、あるいはただ何となくそうではないかと感じて、いずれにせよはっきりと理解してほしいことがあります。その人はキリストの弟子であり、自ら望んでこのような誘惑を受けているのではないということです。どうか、誘惑と背きを混同しないでください。

天の御父と救い主は、わたしたちが何を必要としているのかを御存じであり、このチャレンジに直面しているわたしたちが最後まで堪え忍ぶように助けることがおできになります。御二方はその助けの一部を、自分の時間を喜んでささげ、理解し、哀れみの気持ちのある真の弟子たちを通してお与えになります。こうして、祈りがようやくこたえられたハンナと同じように、義にかなった決意をして強められ、救い主の教えに従順であるなら、「心[の]深[い]悲しみ」は喜びと希望に変わることでしょう(サムエル上2:1参照)。そうすれば、この世の試しに対抗し、教会と天の家に帰る道をさらに見つけやすくなるでしょう。■

注

1. 「同性への誘惑」『聖徒の道』1996年3月号, 24
2. エリン・エルドリッジ, *Born That Way?* (1994年), 33
3. 「同性への誘惑」『聖徒の道』1996年3月号, 18
4. *The Teachings of Ezra Taft Benson* (1988年), 75, 強調付加
5. 「あなたがたは神の宮である」『リアホナ』2001年1月号, 87
6. ニール・A・マックスウェル「よく堪え忍ぶ」『リアホナ』1999年4月号, 12参照。
“Becoming a Disciple,” *Ensign*, 1996年6月号, 15も参照
7. 『聖徒の道』1996年3月号, 21
8. “Reverence and Morality,” *Ensign*, 1987年5月号, 47
9. 参考資料——ロバート・L・スピッツァー “Can Some Gay Men and Lesbians Change Their Sexual Orientation? 200 Participants Reporting a Change from Homosexual to Heterosexual Orientation” *Archives of Sexual Behavior*, 2003年10月, 403-417
10. ボイド・K・パッカー『リアホナ』2001年1月号, 87参照



寛容さを通して主の愛を感じる

以下のメッセージから訪問先の姉妹たちの必要に合った聖句や教えを祈りの気持ちで選び、読んでください。自分の経験や証を伝え、あなたが教える人々も同様に分かち合うよう勧めてください。

これまで主の寛容さをどのように経験してきましたか。

十二使徒定員会 ニール・A・マックスウェル——「生ける神の全き属性のうち、現在も将来も変わることのない属性、わたしたちにとって偉大な祝福となる属性、それは、神の寛容さです。この寛容という特質は、重要であるにもかかわらず、見落とされてしまう傾向にあります。

神の寛容さは、御自分の子供たちが戒めを守るときにお感じになる喜びと結びついています。神は忠実な者を直ちに祝福し、誉れを与えるのを喜びとされるのです(教義と聖約76:5参照)。神の寛容さは、その辛抱強さにも表れています。御自分の子供たちが『神を探し求める』気持ちになったときにいつでも応じることができるよう、ずっと待ってくださっているのです(使徒17:27;教義と聖約112:13参照)。(If Thou Endure It Well [1996年], 39)

大管長 ジョン・テラー (1808-1887年)——「わたしたちには命や健康や財産があるかもしれませんが。子供や友人がいて、家があるかもしれませんが。さらに真理の光があり、永遠の福音の祝福や神の啓示、聖なる神権、そしてそれにかかわるすべての祝福、統治と規則があるかもしれませんが。しかし、これらすべてと、わたしたちが所

有する真に喜ばしいものはすべて神から与えられているのです。わたしたちはこのことに常に気づいているとは限りませんが、あらゆる良い贈り物と完全な贈り物に対して神に恩を受けていることは確かです。』(『歴代大管長の教え——ジョン・テラー』175-176)



寛容さを表すにはどうすればよいのでしょうか。

2コリント9:7——「各自は惜しむ心からでなく、また、しいられてでもなく、自ら心で決めたとおりにすべきである。神は喜んで施す人を愛して下さるのである。」

中央扶助協会会長 ボニー・D・パーキン——「ジョセフ・スミスが扶助協会を組織したとき、わたしたちは『貧しい者を慰め』、『霊を救う』ために召されました[History of the Church, 第5巻, 25]。この務めを果たすとき、わたしたちは福祉の原則に従っているのです。……主の倉は『十分にあり余っている』と言われていますが、主の倉とは、主がわたしたち一人一人の中に[象徴的に]据えておられるものなのです(教義と聖約104:17)。それは、一人の女性がほかの女性の生活に変化を起こすことです。それは、一人の姉妹が、寂しそうにしている姉妹に話を聞かせてくださいと言ったり、一緒に話がしたいと言ったりすることです。それは一人の姉妹が家庭訪問の訪問先の姉妹と親しい関係を築くことです。それは、あなたとわたしが、互いの強さと技術と才能を使って人の

生活を祝福することです。

わたしたちは主に頂いたものの中から、何を主の倉に差し出すのか選択します。姉妹の皆さん、差し出すべき恵みをどれほど豊かに受けているか理解できますか。皆さんはこれまで、主の倉に納めることのできるどのような賜物を受けてきましたか。」「(Welfare, the Crowning Principle of a Christian Life”ブリガム・ヤング大学女性の大会, 2003年5月1日, 3)

第一副管長 マリオン・G・ロムニー (1897-1988年)——「惜しみなく与えてください。そうすることによって皆さん自身が成長するでしょう。貧しい人のためだけに与えないでください。自分自身の幸福のためにも与えるのです。自分自身を神の王国にささげることができるくらい、十分に自分の財産と時間をささげてください。天の祝福を得たいと思うのであれば、正直に什分の一を納め、断食献金を惜しみなくささげてください。このように行うすべての人は霊的な事柄についても物質的な事柄についても、その繁栄が増し加えられると約束します。主はあらゆる人に、その行いに応じて報いてくださるでしょう。』(「断食の律法」『聖徒の道』1982年12月号, 4参照) ■

救い主のように 教える



**救い主が
教えられたように
教える努力をするとき、
わたしたちはさらに
救い主に似た者となる
のです。**

**救い主は、思い起こさせる質問、
考えさせる質問、心に働きかける
質問を用いられました。
わたしたちも、これらの質問を
使うことができます。**

七十人
ウォルター・F・ゴンサレス

「したがって、あなたがたはどのような人物であるべきか。まことに、あなたがたに言う。わたしのようでなければならぬ。」(3ニーファイ27:27) わたしのようにになりなさいという、この救い主からの呼びかけは、生活のあらゆる面に及ぶものです。それは福音の教師として責任を果たす場合も同様です。わたしたちは救い主の教えからだけでなく、その教授法からもより良い教師になる方法を学ぶことができます。

救い主は、周りの人々の生活を感化するために様々な方法を用いられました。例えば、どのように質問されたかに注目してみましょう。救い主が問いかけられた質問には、聞き手の記憶を試す質問、論理的に考えさせる質問、

そして御自身に従う人々の感情に訴える質問などがありました。

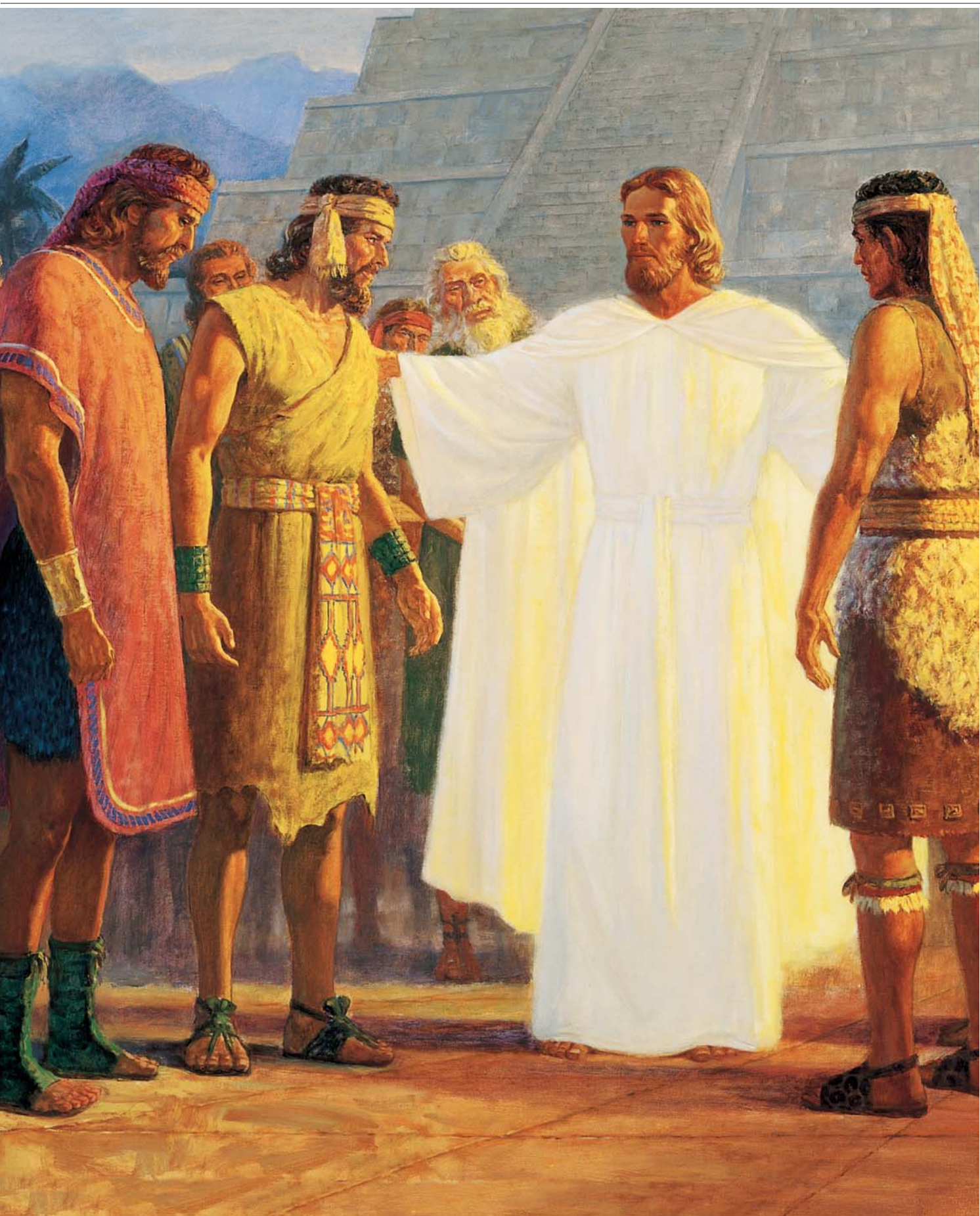
思い起こさせる質問

あるとき一人の律法学者が、永遠の命を受けるには何をすべきかを主に尋ねました。これに対して救い主は、質問を幾つか返されました。「律法にはなんと書いてあるか。あなたはどうか読むか。」(ルカ10:26)

律法学者は、自分の記憶の中から答えを見つけました。律法学者が正しい答えを言うと、救い主は次のように語り、励ましをお与えになりました。「あなたの答は正しい。そのとおりに行いなさい。そうすれば、いのちが得られる。」(ルカ10:28)

別の場面について考えてみましょう。「ある安息日に、イエスは麦畑の中を通られた。すると弟子たちは、空腹であったので、穂を摘んで食べはじめた。」(マタイ12:1) それを見たパリサイ人たちは、救い主の弟子たちは安息日の律法を破っていると言いました。救い主は、パリサイ人たちにあることを思い起こさせるために、次のように問いかけられました。

「あなたがたは、ダビデとその供の者たちとが飢えたとき、ダビデが何をしたか読んだこと



がないのか。

すなわち、神の家にはいって、祭司たちのほか、自分も供の者たちも食べてはならぬ供えのパンを食べたのである。」(マタイ12:3-4)

記憶を呼び覚ます質問は、恐らくわたしたちが応用できる最も簡単な方法です。こうした質問をすることによって、生徒が律法の字義的な意味について、どのくらい知識を持っているか知ることができます。まだ若く教会に入ったばかりのころ、教師というのはそのような質問をするものだと思っていました。そこでわたしは、歴史的な出来事に関して名前や日付、場所などの知識を得ようと努めたものです。これは役に立ちました。なぜなら、学校や教会でのほとんどの質問は、生徒をレッスンに参加させるために知識を問うものが多かったからです。これは良い質問ではありましたが、わたしが振る舞いを改めたり、さらに救い主に似た者となる努力をしたりするうえで強い影響力はありませんでした。教えを聞く人々が御自身のようになるのを助けるために、救い主は別の種類の質問も用いられました。わたしたちはこのことを心に留める必要があります。

考えさせる質問

律法学者が「わたしの隣り人とはだれのことですか」と尋ねたとき、救い主は良いサマリヤ人のたとえを話された後で、次のようにお尋ねになりました。「この3人のうち、だれが強盗に襲われた人の隣り人になったと思うか。」(ルカ10:29, 36)

この問いかけを聞いた律法学者やその場にいた聴衆は、答えを見つけるために深く考えさせられました。この種の質問を受けると、わたしたちは答えを導き出す能力に頼ります。「……についてどう思いますか。」「……に関する意見を聞かせてください。」「なぜ……ですか。」このような質問は、互いに理解し合う助けとなります(教義と聖約50:22参照)。救い主の教えの中から次の例について考えてみましょう。

「あなたがたはどう思うか。ある人に100匹の羊があり、その中の1匹が迷い出たとすれば、99匹を山に残しておいて、その迷い出ている羊を捜しに出かけないであろうか。」(マタイ18:12, 強調付加)

「あなたがたはどう思うか。ある人にふたりの子があつたが、兄のところに行って言った、『子よ、きょう、ぶどう園へ

行って働いてくれ。』」(マタイ21:28, 強調付加)

また、問いかけの形にはなっていない、特に答えを求めている質問も、教える者と聞く者相互の理解を深める助けになる場合があります。山上の垂訓の中で主はこうおっしゃいました。

「あなたがたが自分を愛する者を愛したからとて、なんの報いがあるか。そのようなことは取税人でもするではないか。

兄弟だけにあいさつをしたからとて、なんのすぐれた事をしているだろうか。そのようなことは異邦人でもしているではないか。」(マタイ5:46-47)

わたしの妻は、宣教師から投げかけられた一つの質問によって、人生にいかに大きな影響を受けたか今も覚えています。宗教への造詣ぞうけいが深かった妻は、ある日、きょうだいから宣教師の話話を聞くように勧められました。宣教師は教義を教えた後、妻に深く考させる質問をしました。「あなたはなぜ末日聖徒イエス・キリスト教会が真実の教会だと思えますか。」この質問について思い巡らすうちに、妻の心には様々な考えが浮かび、やがて心の琴線に強く触れるものを感じました。質問に答える妻の目には涙があふれ、御霊みたまが証あかししました。こうして妻は、改宗の道へと歩みを進めていきました。



すると救い主は、弟子たちが各々の思いを述べられるようこう質問されました。

「それでは、あなたがたはわたしをだれと言うか。」

心に働きかける質問

わたしたちは皆、質問されることによって自分の感情を表現することができたという経験があるはずで、感情を表現しても非難されないという確信を持たなければ、人はそれを語ろうとはしません。救い主が聞き手の心に働きかける質問をされたのも、そのような場面においてでした。

ピリポ・カイザリヤの海岸で、救い主は弟子たちにお尋ねになりました。「人々は人の子をだれと言っているか。」弟子たちは、ある人々はバプテスマのヨハネだと言い、ほかの人はエリヤあるいは預言者の一人だと言っていると答えました。

すると救い主は、弟子たちが各々の思いを述べられるようこう質問されました。「それでは、あなたがたはわたしをだれと言うか。」

シモン・ペテロは自分の思いをこう述べました。「あなたこそ、生ける神の子キリストです。」

そこで主は、次のような言葉をもって使徒たちの頭であるペテロの答えを補い、強められました。「バルヨナ・シモン、



あなたはさいわいである。あなたにこの事をあらわしたのは、血肉ではなく、天にいますわたしの父である。)(マタイ16:13-17, 強調付加)

マルタの兄弟ラザロが亡くなったときにも教えを受ける機会がありました。救い主はまず御自身について次のように証されました。「わたしはよみがえりであり、命である。わたしを信じる者は、たとえ死んでも生きる。また、生きていて、わたしを信じる者は、いつまでも死なない。」

そして、マルタの心に問いかけられました。「あなたはこれを信じるか。」

それによってマルタは自分の思いを述べることができました。「主よ、信じます。あなたがこの世にきたるべきキリスト、神の御子であると信じております。)(ヨハネ11:25-27, 強調付加)

わたしたちは「人が聖霊の力によって語る際には、聖霊の力がそれを人の子らの心に伝える」ことを知っています(2ニーファイ33:1)。福音を教えるあらゆる場面において、適切な質問を心に投げかけることで、聖霊を招くことができます。

ある家族では、最近集まったときに、一人が宣教師から尋ねられ心に響いた質問について話しました。宣教師は最初のレッスンが終わると、彼女に向かってこう尋ねたのです。「わたしたちがお伝えした教えについて、どのように感じられましたか。」この質問のおかげで、レッスンは大変すばらしいものとなり、互いに高められました。

自分の思いを述べさせる質問には次のようなものがあります。「なぜ……を信じるのです

か。」「……についてどう思いますか。」「……についての経験がありますか。」教師は皆、だれかが思いを述べるとき、神聖な場に立ち会っていることを理解する必要があります。強要されてではなく、自ら進んで思いを伝えるとき、その思いは常に尊重され、どんな方法でも決して非難されるべきものではありません。

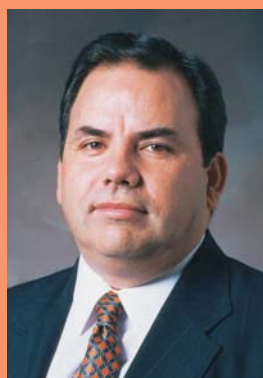
救い主に学ぶ

救い主は、わたしたちが家庭、教会、社会において教える際に^{なら}倣うべき教師です。救い主はニーファイ人にこうおっしゃいました。「見よ、わたしは光である。わたしはあなたがたのために模範を示した。)(3ニーファイ18:16) また弟子たちにも同様に説かれました。「あなたがたは、わたしの教会で行わなければならないことを知っている。わたしがするのを見たその行いを、あなたがたもしなさい。わたしが行うのを見たそのとおりのことを、あなたがたも行いなさい。)(3ニーファイ27:21)

キリストのようになるための最高の訓練は、公私にわたって教える機会にあずかるとき自分が人にどのような質問をしているか注意を払うことです。知識を思い起こさせる質問は、相手の理解度を教えてくれます。深く考えさせる質問は、人々が真理を見いだせるよう助けてくれます。思いを表現するように促す質問は、改心へと導く神聖な場面に導き、愛する人々を啓発してくれます。救い主が教えられたように教える努力をするとき、わたしたちはさらに救い主に似た者となるのです。■

**救い主は、
わたしたちが
家庭、教会、社会に
おいて教える際に
倣うべき教師です。
救い主は
ニーファイ人にこう
おっしゃいました。
「見よ、
わたしは光である。
わたしは
あなたがたのために
模範を示した。」**

た ま も の 賜物と導き



南アメリカ南地域
地域幹部七十人
ホルヘ・L・デル・カスティヨ

導き手である
聖霊との
交わりを深める
ことによって、
わたしたちは
守られ、
真理の証に
導かれていきます。

わたしが育ったアルゼンチンのブエノスアイレス近郊では、サッカーがとても人気がありました。10歳か11歳のころには、よく近所の少年たちが集まり、空き地でサッカーをしたものです。空き地は、トラックやバスが激しく行き来する交差点に面していました。

ある日、年上の少年たちがサッカーに興じる様子を自転車にまたがって見ていると、声が聞こえてきました。「ホルヘ、向こう側へ移りなさい。」辺りを見回しましたが、そばにはだれもいませんでした。わたしは一人だけでした。

しかしわたしはその声を心に留めました。そして交差点の角を自転車で移動し、先ほどとは別の道路から試合を見ていました。すると1分もたたないうちに、2台のトラックが交差点で衝突し、さっきまでわたしが立っていた辺りまでスリップして突っ込んで行きました。

もしもあそこにとどまっていたなら、トラックに押しつぶされていたことでしょう。しかしある御方が——わたしはそれがどなたか知っています——角を曲がって場所を変えるようにと知らせてくださったのです。

イエス・キリストの教会の会員として、わたしたちは聖霊の賜物という祝福を受けています。聖霊の導きに従うならば、わたしたちは守られます。サッカーの試合を見ていたときのわたしのように、肉体的に守られるだけでなく、霊的

にも守られるのです。正しいことを行うのは、自転車のペダルを1メートル先までこぐくらい簡単だとは限りませんが、導き手である聖霊との交わりを深めることによって守られ、真理の証に導かれていくのです。

きっぱりとした態度

10代のころ、わたしは専門学校で学びました。男子校でした。様々な信仰を持つ人たちや、まったく信仰を持たない人たちの中で、教会員としてやっていくのは難しいことでした。教会員は学校中でわたし一人だったので、とても孤独に感じ、また自分だけが皆と違うような気がして、大変つらい状況でした。級友たちはわりと親切でしたが、わたしの信条を理解してくれる人はあまりいませんでした。

今でもよく覚えています。あるとき、級友たちがわたしにたばこを吸わせようとしてきました。直接的な言葉では言われませんでしたが、その代わりに、教室で先生が来るのを待っている間、一人がたばこに火をつけました。校舎の中では禁煙だったので。

わたしは教室の後ろの方に座っていました。前の方に座っていた生徒たちはたばこに火をつけ、一人ずつたばこをふかしては後ろに回って行きました。わたしのところまでたばこが回ってくるのを、皆じっと見ていました。ついにわたし



の前に座っていた生徒もたばこをふかし、振り返りました。

わたしはそのたばこを受け取りませんでした。

彼は言いました。「ほら、吸ってみろよ。」

「いや、ほくは吸わない。」

彼はそのたばこをつまんでわたしの口に入れました。それでわたしは彼を殴ってしまいました。彼もわたしを殴り返しました。そして教室にいたほとんどすべての生徒を巻き込んでけんかが始まりました。もっとも、先生が教室に来るまでに、皆大急ぎで席に戻ったのですが。

わたしの対処の仕方が正しかったと言うつもりはありません。しかしわたしはまだ13歳で、そのような場でどうしたらよいのか分からなかったのです。ただ確信していたのは、だれもわたしにたばこを吸わせることはできないということです。

授業の後、先ほど殴ってしまった少年を見つけて赦しを求めました。彼は幾分感情を込めて、「いや、ほくの方こそ君に謝らなければならない」と言ってくれました。

もしわたしが自分の標準を下げていたならば、聖霊はわたしのところにとどまってくれただけで済んだのでしょうか。それともわたし

は導き手を失っていたのでしょうか。

正しい選びをすることによって、聖霊を自分の伴侶^{はんりよ}とすることができました。そして聖霊が導き手^{あかし}となって、正しい決断をするのを助けてくださったので、証が強められたのです。

聖霊の助けによって

わたしは14歳か15歳のころ、時間があるときには、家族で経営していたドライクリーニング店で父を手伝っていました。その夏、仕事がそれほど忙しくなかったため、わたしは考えました。「そうだ。モルモン書を最初から最後まで、全部読み通してみよう。」そして早速取りかかりました。それはとても心躍る経験でした。

当時わたしが持っていたモルモン書には、序文の中にモロナイの約束が載っていました。この約束がわたしの心をとらえました。モルモン書を読んで神に尋ねるならば、神がこたえてくださるというのです(モロナイ10:3-5参照)。この約束については以前から聞いていましたが、このときほど聖霊によって心が強く動かされたことはありませんでした。

モルモン書の最後のページを読み終えた後、わたしは店にある小さな個室にひざまずき、天の御父に祈りました。そして聖霊によって、求めていた証を得ることができたのです。モルモン書は神の言葉であり、ジョセフ・スミスは預言者であるという確信が、つま先から髪の毛の1本1本に至るまで、体中にみなぎりました。

長年にわたり、聖霊を通して様々な神聖な経験をしてきましたが、この最初の経験のことはいつまでも覚えています。聖霊は良い選びができるように助けてくださいました。福音に従って生きようとするとき、導きを与えてくださいました。伝道に出る決意をするよう導いてくださいました。そして、現世で行う決意の中でもとりわけ重要な決意、つまりすばらしい伴侶^{はんりよ}を見つけるときにも、聖霊はわたしを導いてくださいました。

聖霊を伴侶とするのにふさわしい生活を送るように努力するならば、聖霊はわたしたちを導いてくださいます。■

家庭の夕べの

提案箱



次のような家庭の夕べのアイデアは、折にふれ活用できるものです。月曜日の夜をちょっと目先の変ったものにする事ができるかもしれません。

オレゴン州ビーバートンステーク、ウエストヒルズワードのマシュー・モーリスと妻ジュディーも、常に家庭の夕べのレッスンや活動に使える新しいアイデアを探しています。おもに『家庭の夕べアイデア集』(カタログ番号31106 300)をよりどころとしていますが、ほかからのアイデアも大歓迎です。アイデア集に目を通してると、ジュディー・モーリスの頭にアイデアが浮かびました。提案箱を設置して意見を募るのです。

モーリス姉妹はこう言います。「家庭の夕べについて子供たちがどう感じているのかを知るのに良い方法だと思ったのです。わたしは提案箱を作って、子供たちの目に留まりやすい棚に置きました。2, 3日すると、6歳と8歳の娘からのメモが入っていました。それが分かったときのわたしの喜びが想像できますか？ 娘たちの意見は、『フレンド』に毎月載っている家庭の夕べのアイデアを使いたいというものでした。夫とわたしはその意見を取り入れてみることにしました。それ

からの2週間、二人の娘が一人ずつ、短いレッスンをしたので。レッスンは開会の歌で始まり、聖典からの引用やお話、活動と続きます。もちろん、最後には皆でお菓子を食べました。」

提案箱は、モーリス家にとってはうってつけの方法でした。次に挙げるのは、皆さんのための「提案箱」です。読者から寄せられた家庭の夕べのアイデアや証あかしがたくさん詰まっています。これらのヒントを読んで、皆さんの状況によく合ったものを幾つか選び、活用してみてください。

聖文をよく味わう

聖典は、家庭の夕べの身近な教材です。イタリア・カラブリア地方部、レッジョカラブリア支部のフォルトゥナータ・マンダラリ姉妹は、休暇を取って娘の家族のところへ遊びに行きました。そこででの家庭の夕べのレッスンに聖典を活用しました。

「7人家族の一人一人に1枚ずつ紙を用意して、こんな言葉を書いたのです。『次の家庭の夕べには、好きな聖句と、その聖句について言いたいことを考えてきてください。持ち時間は5分です。』」

月曜日、テーブルを囲んで座ったときから、すでにわたしたちは穏やかな雰囲気になっていました。わたしはすべてうまくいくと確信しました。皆違う聖句を発表しました。皆が発言し、互いから学び合うことができたのです。皆この方法が

気に入ったので、わたしの休暇中はずっとこの方法でした。

この方法は今でも家庭の夕べで使っていると、娘はわたしが帰ってから言っていました。皆が学び、発言し、人の話に耳を傾けます。退屈な時間はまったくありません。」

靈感を求めて祈る

現在ワシントン州シアトルステーキ、パッション支部に所属するスーザン・ウォルフは、特別な家庭の夕べを開くよう靈感を受けたときのことを次のように回想しています。「わたしたち家族は引越して来たばかりでしたし、わたしは妊娠していました。就学前の子供が二人いたこともあり、新しい弟または妹を迎え入れる準備になるようなテーマで家庭の夕べができないものかと考えていました。何を讀んでもこの目的にぴったりだと思えるものが見当たらなかったため、わたしは祈りました。新しい子供が我が家に生まれても、自分たちに注がれる親の愛情が減るわけではないことを、子供たちにどうしても理解してほしいと思ったのです。それに、イエス・キリストがすべての愛の源であられるということもはっきり理解させたいと思っていました。祈り終えて立ち上がったとき、一つのアイデアが心に浮かびました。

そのときの月曜日の夜は、賛美歌を歌って開会の祈りをした後、子供たちにそれぞれ紙コップを手渡しました。コップに水を注ぎ入れてから、質問しました。「お母さんの持っている水が空っぽになってしまったらどうする？」息子の答えはこうでした。「台所に行って水を入れて来ればいいじゃないか、お母さん。」

そこでわたしは、こんな説明をしたのです。「もうすぐ新しい赤ちゃんが生まれるでしょう？ そうすると、お母さんは今よりもずっと忙しくなるの。あなたたちとも、今ほどたくさんは遊んであげられなくなるのよ。でも、だからといってあなたたちに対するお母さんの愛がなくなってしまうわけではないの。なぜだか分かる？」

この質問については、息子も3歳になるその妹も知恵を絞っているようでしたが、答えは見つかりませんでした。「天のお父様に祈りしさえすれば、イエス様がお母さんの心を愛で

宣教師に手紙を書いたり小包を送ったりしながら、家族で和気あいあいと過ごすことができます。

いっぱいにしてくださるからよ。そうすれば、家族みんなに行き渡るだけの愛がもらえるっていわけ。」この言葉に満足したらしく、子供たちの顔がぱっと輝きました。夫もそうです。そのときわたしたちは、神は確かに愛なのだ聖霊が証してくださっているのを心にはっきりと感じ取ることができました。

娘はもう23歳になりますが、この間、はるか昔にしたこの日の家庭の夕べのレッスンを一言半句違えずにしてくれました。愛をテーマにし、イエス・キリストをよりどころとするならば、たとえごく幼い子供であっても、霊的に学ぶことができるのです。これはわたしにとって証となりました。」

宣教師に手紙を書く

ユタ州バウンティフル中央ステーキ、レークビューワードの会員アレサ・ギルバートは、90歳という高齢にもかかわらず、自分の家族を家庭の夕べに呼ぶことを楽しみとしていました。2002年に亡くなる前に、アレサはこうした特別な家庭の夕べについて次のように書いています。「ペンや鉛筆、便箋、封筒が十分な数だけそろっているかどうか確認します。封筒には、前もって住所を書いておくこともあります。伝道に出ている家族やワードから出ている宣教師に、一人一人がメッセージを書くのです。何て楽しいひとときでしょう。だれでもこうして過ご





上——家庭の夕べを、当面の疑問を解くために話し合ったり聖文を調べたりする場にも使えます。右——どの教会機関誌にも、具体的な記事をどのように家庭の夕べのレッスンに利用したらよいかを教えてくれるヒントが載っています。

毎週毎週レッスンを繰り返していると、失敗だったと思える月曜日もあれば、思いのほかうまくできたと言える月曜日もあるのではないのでしょうか。大切なのは、続けることです。

すのが好きです。手紙は、出す方にとっても受け取る方にとっても喜びなのです。」

ブラジル・ブラジリア伝道部で奉仕していたニコラス・D・ジャーマー長老は、家庭の夕べで書かれた手紙を受け取ったことがあります。ジャーマー長老はこう書いています。「伝道に出る前から知っていたある家族から、3度手紙をもらいました。3歳の娘さんなどは、お父さんの手を借りてまでもメッセージを書き送ってくれました。この家族の愛がよく伝わってきました。わたしは、この3通の手紙のことを決して忘れません。」

宣教師におもしろい手紙を書いている家族もあります。まず、大きな紙を広げます。次に、カラーマーカーを使って家族が皆それぞれメッセージを円形に書いたり、いろいろな模様や形になるように書いたりします。小さな子供たちは枠を描いて、その中に絵を描きます。出来上がると、折り畳んで大きな封筒で郵送します。受け取った宣教師は、この「壁掛け」を部屋の壁に張って何週間も眺めて楽しむのです。

実体験を利用する

福音に関する疑問がわいてくるような体験を、家族全員が一緒にすることがあります。そのようなときには、当面の疑問を解くために話し合ったり聖文を調べたりする場として家庭の

夕べを使うこともできます。

ユタ州プロボ・グランドビューステーク、グランドビュー第5ワードのバート・ダーネークと妻レアンヌの家族は、家族で休暇を楽しんでいるときに変わった経験をしました。

「主人とわたしは、貝殻を探すために子供たちを連れて浜辺を散歩することにしたのです」とダーネーク姉妹は言います。「散歩していると、すてきな男女に出会いました。主人が二人に話しかけたのですが、わたしたちはあつという間に打ち解けてしまいました。

翌日は夕食を共にしました。そのとき、この二人が間もなく地元の牧師のもとで結婚式を挙げることになっていると知りました。二人は、親族がいないので結婚式に証人として出席してほしいとわたしたちに頼みました。わたしたちは同意しました。

結婚式は、澄み渡った静かな海に太陽が沈むころ、美しい浜辺で行われました。花嫁も花婿も輝いていました。二人は手に手を取って、お互いを愛し、敬い、大切にすることを約束したのです。子供たちは新しい友達の晴れの日を祝っていましたが、結婚式に関する疑問は幾つもわいてきていました。そのため次の家庭の夕べでは、永遠の結婚について学ぶことになりました。

教義と聖約第132章15、19節にある永遠の結婚がなぜ大切なのか、家族で話し合いました。子供たちに、神殿に行って永遠の結び固めを受けられるよう、ふさわしい生活をするのが大切だと教えました。『死が二人を分かたずまで』の約束である民事結婚に比べて、二人を永遠に結び固める権能によって執り行われる神殿結婚がどれほどすばらしいか話し合っているとき、聖霊が靈感を注いでくださっているのが分かりました。

このように実際に一緒に体験したことを基にしたことが、永遠の結婚に関連する福音の原則を教えるための強力な土台となりました。子供たちは実際に浜辺の結婚式に出席していたため、興味津々でした。わたしたち夫婦は神殿結婚の喜びを現実味に味わっているため、それを伝

えたくてたまりませんでした。その結果、家庭の夕べで皆が強められることとなったのです。」

教会機関誌を利用する

「『リアホナ』の子供のページに載っている活動は、大人でも楽しめるものです」とは、アルゼンチン・コモドロ・リバダビアステーク、カレタ・オリビアワードのマーサ・マベル・マルティーネスの言葉です。「うちは父と母、それに成人した娘であるわたしの3人で暮らしています。以前は家庭の夕べを開くことはとても難しかったのですが、子供のページを使うようになってからというもの、すべてが良い方向に向かいました。特に、家族がそろって良い雰囲気を楽しむようになったのです。時には家を離れている家族がやって来て参加することもあります。一緒に家庭の夕べを楽しんでいきます。」

家庭の夕べで使えるアイデアは、どの教会機関誌にも載っています。例えば、『リアホナ』の第1ページ、『エンサイン』(Ensign)の「本号を最大限活用するために」(Making the Most of This Issue)、『ニューエラ』(New Era)の「あなたのために」(What's in It for You)、『フレンド』(Friend)の「『フレンド』の使い方」(Guide to the Friend)などです。各教会機関誌にあるテーマ別索引から題材を選び、それを中心に組み立てることもできます。索引には、各テーマに関連したその月の記事が載せてあります。記事を家族で読み、その上である決まったテーマで話し合うことが簡単にできるようになっているのです。

続ける

毎週毎週レッスンを繰り返していると、失敗だったと思える月曜日もあれば、思いのほかうまくできたと言える月曜日もあるのではないのでしょうか。大切なのは、続けることです。

ある若い女性が、家庭の夕べを毎週開くことからどれほど力が得られるかを証しています。

「人生を一度で大きく変えた家庭の夕べというものはありません。むしろ家庭の夕べを毎週開いていたという記憶自体がわたしの証を強め、真理の道を歩めるように導いてくれたのです。わたしが覚えているかぎり、月曜日の夜は毎週、家族で一

緒に過ごしたように思います。家族で聖文を学んだりキックベースをしたり、家族会議を開いたり、ゲームをしたりしました。それぞれの過ちや欠点を乗り越えて、家族がお互いを愛し、尊重することも学びました。父は、わたしたちが福音に対する愛をはぐくみ、戒めを守ったときに得られる幸福を味わえるよう、一生懸命努力してくれました。

14歳になるころにはわたしは教会に行かなくなっていたのですが、家庭の夕べは相変わらず行っていました。父はわたしに対する望みを捨てなかったのです。そのうち、家庭の夕べだけがわたしとイエス・キリストの福音とを結ぶ接点となってしまいました。わたしは間違っただ道に入り込み、過ちを幾つも犯しました。それでも心の奥のどこかでは、福音は真実であり、自分が何をしようがその事実を変えることはできないということが分かっていました。

18歳のとき、身の振り方を決めなければならないと思いました。救い主に従うか、それともこの世に従うかを決めるべき時が来たのです。二人の主人に兼ね仕えることはできません。わたしは主に従うことを選び、悔い改めて完全に教会に戻りました。これができたのは、わたしがどんなに抵抗しても、父が断固として家庭の夕べを開き続けたからです。

今では、救い主とその教会に対する愛を子供たちの心にはぐくみたいと、主人もわたしも望んでいます。もちろん、そのために用いる手段は、毎週の家庭の夕べです。」■





鎖の輪

子供たちがわたしと教会に集うのをやめるといふ選択をしたとき、わたしは心に深い痛みを覚えました。わたし自身、教会に集い続けられるだろうかときえ考えたほどでした。

エバ・フライ

わたしは1970年に末日聖徒イエス・キリスト教会の会員になりました。会員になる備えはよくできていました。お酒やたばこ、茶、コーヒーなどを一切口にしていなかったからです。口にしなくなったのは、そろそろ自分の生活を改め、子供たちを集わせる教会を見つける潮時だと気づいたときでした。

改宗のきっかけは、義姉が教会に対し好意的な意見を持つようになり、わたしのもとに教会の機関誌が届くように手配してくれたことでした。その後モルモン書を読み、それが真

実であることが分かりました。程なく3人の子供とともにバプテスマを受けました。夫はわたしたちの新しい生活に乗り気ではありませんでした。家族を取られてしまうように感じていたからです。それでも教会に集うことを許してくれました。

それからの数年間、家族の中で何人かが反対はしたものの、とても幸せに過ごしました。毎週日曜日に子供とともに教会へ行くのが大好きでした。福音はまさにわたしが探し続けてきたものでした。教会はまた、子供のころに父がアルコール中毒だったせいで心に残っていたむなしさを埋めてくれました。

しかし、子供たちが大きくなるにつれて、様子は変わってきました。子供たちは日曜日に教会でじっと座っているよりも、父親とボートに乗りたいと思うようになりました。突然、わたしは独りで教会に行くようになりました。心が痛みました。教会まで車を走らせ、独りぼっちで座り、泣き、そしてまた家へ戻って来るのでした。

とうとうステーク会長に「家族がばらばらになってしまうので、教会に来るのをやめようと思います」と話しました。するとこのように勧告されました。「あなたが教会に集うのをやめることが、天の御父の望んでおられることかどうかを、主に尋ねてください。」家に帰ると勧告されたとおりに断食し、祈り、そして答えを受けました。次の言葉が強く胸に迫って来たのです。「あなたは鎖の輪です。あなたが輪を解けば、すべてが失われてしまいます。」この言葉は心に深くしみ、わたしは教会に集い続けよう決心しました。

恥ずかしがり屋のわたしにとって独りで教会に行くのは容易なことではなく、それまで子供たちに守られていたことに気づきました。再び、直面している問題を主のもとへ持って行きました。この度は、自分のもう一つの家族であるワードの人々に近づくようにという靈感を受けました。そこでわたしは教会に行くと同じように独りぼっちでいる人を探し、勇気

鎖が切れないように



「遠い昔に経験したことを思い出しました。夏になると、わたしたちは農場で過ごしました。そこには小さな古いトラクターがありました。また1本の枯れ木があり、わたしは引き抜いてしまいたいと思っていました。そこで鎖の一方をトラクターにくくり付け、もう一方を木にしっかりと結びつけました。トラクターが動き始めると、木は少し揺れただけで、鎖が切れてしまいました。

わたしは壊れた鎖の輪を見詰めながら、なぜ切れたのかを考えました。そして工具店へ行って替わりの輪を買い、元どおりにつなぎ合わせてみました。しかしつなぎ目は不自然で不格好でした。鎖はもう二度と元に戻ることはなかったのです。

わたしは腰を下ろし、……こうしたことについて思いを巡らしながら、自分にこう言い聞かせました。『一族の鎖の中にあつて、決して弱い輪になるまい。』先祖から受け継いだ身体や頭脳、そしてできることならば信仰や徳を、一点の染みも汚れもないままに自分の後に続く世代に残すことは、きわめて大切です。

若い男性、若い女性の皆さん、皆さんの多くはいずれ結婚し子供を持つでしょう。皆さんの子供たちも子供を持ち、その子供たちもまた同様でしょう。生命は、何世代にもわたってつながっている長い鎖であり、この教会の会員であるわたしたちはその輪をつなぎ合わせなければなりませんと信じています。」

大管長 ゴードン・B・ヒンクレー
“Keep the Chain Unbroken,”
Brigham Young University 1999–2000
Speeches (2000年), 108–109

を出してその人と話すようにしました。長い歳月を経て恐れは去り、今ではワードにたくさんの友達がいます。

忠実に教会に集おうという決意もまた報われました。子供たちは一人また一人と教会に戻り、今では3人の子供すべてが活発な会員です。子供たちは9人の孫を福音の中で育てており、それぞれ義の道を歩んでいます。

母と妹も改宗しました。妹の夫は監督をしており、その子供のうち二人は伝道に出ました。わたしの息子も専任宣教師として働き、現在孫が一人伝道中です。わたしたちの家族は非常に仲が良く、夫はまだ改宗していませんが、多くの面で成長しました。

わたしは、受けている祝福と、家族の中にあつて感じる幸せと喜びについて、毎日天の御父に感謝しています。「あなたは鎖の輪です」という祈りの答えに心を留めたことにほんとうに感謝しています。■

エバ・フライはカリフォルニア州エスコンデッドステーク、バレーセンター第1ワードの会員です。



ウクライナで 家族を第一にする

数々の障害にも負けず、家族を強めるために
努力するウクライナ、カーコフの聖徒たち。

マリーナ・ミハイロフスカヤ、ベンジャミン・ゲインズ

19 91年8月19日の朝、目を覚ましたウクライナの人々に驚くべきニュースが飛び込んできました。70年近く続いた政府が突然崩壊したのです。一瞬のうちに、そして永久に、生活は変わりました。ウクライナ、カーコフ出身のドミートリー・ミクリンは、その朝と、その後の混乱の日々をよく覚えています。「ある国で眠りに就き、翌朝目覚めるとそこは違う国だったという感じでした」と語ります。「突如として、わたしたちは生活の様々な面でほんとうの自由を経験し始めたのです。」

多くの人々は、信教の自由を大きな祝福ととらえました。1991年9月12日、十二使徒定員会のボイド・K・パッカー長老が、回復された福音を宣べ伝えるためにウクライナの地を奉獻しました。その1年後、ウクライナ第2の都市カーコフに、初めて宣教師が派遣されました。そして1993年1月、カーコフのアレクセイェフカ居住区に支部が組織されました。

パッカー長老は奉獻の祈りの中で、「〔ウクライナの〕人々が食べ物と衣服と住居に恵まれるように」と祈り求めました。これまで、そして現在も、ウクライナのほとんどの市民にとって、そういった必需品を手に入れるのは至難の業です。多くの人々は、家族と過ごす時間を犠牲にして長時間働かなければなりません。事業の民営化によって裕

福になるチャンスを手に入れたばかりに、家庭生活から心をそらしてしまった人々もいます。それに加えて、現在ウクライナにおける離婚率は世界で最も高く、婚外出産は増加しており、子供は一人だけ、あるいは子供をつくらないという選択をする夫婦が増加しています。残念なことに、ウクライナの多くの市民にとって、



チェルビヤコフ家族(上), ミクリン家族(左下), イェムツォフ家族(右下)は、ウクライナにおいて人々が家族を第一にする助けをしている。





家族の大切さへの意識は希薄になってしまったようです。

しかしカーコフの末日聖徒は、教会のおかげで家庭に対する価値観を取り戻すことができたと言います。帰還宣教師のドミートリーは最近カーコフからモクスワに引っ越して来ました。現在ロシア・モスクワ南伝道部の第二副部長として奉仕する彼もまた、そのような勇敢な聖徒の一人です。彼は2000年4月、ドイツ・フライベルク神殿で両親と、そして2003年8月、スウェーデン・ストックホルム神殿で妻ビクトリヤと結び固めを受けました。

「回復された福音を耳にしたとき、希望と確固とした心の支え、そして家族として永遠の命を受けられるという信仰を得ました」と彼は語ります。「以前は重要だと思っていた問題も、無意味なものになりました。家庭での優先順位が変わり、価値観と自信、そして守りを感じるようになりました。」

ドミートリーの父親セルゲイは現在カーコフ支部の支部長に召されていますが、彼もまた「わたしたちの教会は、家族についての真理を学ぶことのできる唯一の場所です」と語ります。

このような確信を背景に、アレクセイエフカ支部の会員たちは、家族を強めるという永遠の原則を実践すべく献身しています。自分たちの家族だけでなく、世にあって世のものとならないように(ヨハネ17:11-14参照) 努めているほかの家族をも強めようとしているのです。現在のウクライナには、人の心を家族から引き離すような数々の問題がありますが、家族を第一とすることで、ここカーコフの多くの人が幸福な家庭を取り戻すことができました。アレクセイエフカの聖徒にとって、家族と永遠の目標は、行いすべてに浸透しています。

聖なる場所に立ちなさい

ビタリー・イェムツォフは1988年、ソ連軍の一員としてベル

リンの壁の東ドイツ側で軍務に就いていました。「わたしはごく平凡な子供時代を過ごしました」とイェムツォフ兄弟は語ります。「しかし、ドイツに住んでいたとき、他国政府の支配下であって多くの家族が苦しむ様子を目にして、とても気の毒に思いました。彼らに対する兵士の態度はひどいものでした。わたしはその経験から、ドイツで目にした家族や自分の育った家庭よりも、もっと良い家庭生活を送りたいと思うようになりました。」

軍務を終えた後、ビタリー・イェムツォフと幼友達は、霊的に満たされないのを感じ、熱心に真理を探し求めました。そして、カーコフで教会が伝道活動を始めてほんの数か月後、二人は回復された福音を知り、すぐに受け入れました。「宣教師に会ったとき、ついに霊の糧、特に家族のために用意された霊の糧を見つけたと思いました。わたしたちすべてに欠けているものを見つけたのです」と彼は語ります。

しかしいかに信仰があるとはいえ、イェムツォフ兄弟と妻リュドミラにとって、家族にかかる重圧と人生の試練は変わらず存在します。二人は18か月後には、高給ではあっても家族の時間を犠牲にしなければならなかった仕事を辞めました。その後、二人は同程度の給料を得られる仕事を見つけることができました。そうは言っても、日々の生活に追われ、家族を優先できなくなることもあります。イェムツォフ兄弟は毎日9時間、週に6日、車の塗装と修理の仕事をしています。イェムツォバ姉妹〔訳注——ロシア語では、女性の姓は「ア」音で終わる〕は最近まで倉庫の管理人として働いていましたが、現在は老人介護施設で働いています。それに加えて、イェムツォフ兄弟は支部長、そしてインスティテュート教師として、またイェムツォバ姉妹は支部の若い女性会長として召しを果たしています。

ウクライナのほかの人々と同じように、イェムツォフ家族もまた、家族に巧妙に働きかける圧力にさらされています。職場でたばこも酒も飲まないのはイェムツォフ兄弟だけなので、孤立していると感じることがよくあります。「酒もたばこもやらないと言ったら、みんな驚いていました」と彼は言います。「最初はわたしのことを変わり者だと思った人もいました。でも、今ではほとんどの人が、そのことで尊敬してくれています。」

アルコール中毒もウクライナの抱える深刻な問題であり、知り合いの中に酒を飲まない者はいないという人もいます。喫煙も同様で、特に若者の間で広まっています。ポルノグラフィを使った広告があふれ、またどの街角でもいかがわしい本が売られています。

「誘惑は至る所にあります」とイェムツォバ姉妹は語ります。「サタンはこの国で熱心に働いています。でも、御霊も熱心

に働いています。家族でどれだけ時間をともに過ごすかだけでなく、その時間に何をやるかということも大切だとわたしたちは考えています。そして、きずなを強めるような活動を優先するようにしています。」「家族の祈りと聖文学習は、家族の幸福の価値を思い出させてくれる大切な日課となりました」とイェムツォフ家族は言います。

「主は『あなたがたは聖なる場所に立ち……なさい』と言われました(教義と聖約87:8)。家庭を聖なる場所にして、家庭で過ごす時間を通して家族がより親密になれるように努力しています」とイェムツォフ兄弟は語ります。

重要な事柄を選ぶ

アレクサンドル・チェルビヤコフは、もしも望んだならあらゆる富とぜいたく品を手に入れることができたことでしょう。9年前に食品技術会社を設立したとき、仕事を依頼したいという顧客がウクライナ中、またロシアからも訪れました。「教会がなかったら、四六時中働いて必要以上にお金をもうけながら、永遠の愛ある家族と

いう祝福を逃してしまうような人々の仲間入りをしていたことでしょう。」チェルビヤコフ兄弟は過去を振り返って語ります。

幸い、二人の若い宣教師からイエス・キリストについてもっと知りたいですかと尋ねられたとき、彼は「はい」と答えました。そして1995年、妻リュドミラ、娘インナとともにバプテスマを受けました。そのとき以来、仕事の時間を減らして、家族との関係を強めると同時に、教会でも奉仕しています。これまでずっと支部長を務め最近第二副支部長に召されました。チェルビヤコフ夫妻は1997年8月に神殿で結び固めを受けました。

「正しい優先順位を保てたのは、家庭の夕べのおかげです」とアレクサンドルは語ります。「人はいとも簡単に、ほんとうに大切なものが何かを忘れてしまいます。月曜の夕べは、大切にないものはすべて忘れ、家族だけに心を向ける素晴らしい機会となっています。」

彼は家庭の夕べで行う活動について次のように語ります。「いつも聖文や『リアホナ』を読みます。家族に関係したテーマがあれば、それについて話し合います。今はインナが来年卒業してどの大学に入るべきかという問題があり、よくそれ

について話し合っています。そして楽しいひとときを過ごします。『家族とともに過ごすのは楽しい』ということは、人生を豊かにするうえでのすばらしい秘訣^{ひげつ}だと思います。一緒に踊ったりすることもあるんですよ。」

真理を分かち合う

ヒンクレー大管長はこう言いました。「わたしたちは家族が社会の基本単位であると信じています。強い家族なしに、強い地域社会を築くことはできません。父親と母親と子供たちが一つの単位として協力する強い家族なしに、強い国家を

築くことはできません。今やアメリカ全土において、また全世界において、家族はばらばらに崩壊しつつあります。教会の会員の間には善良で健全な家族生活を培うことさえできれば、わたしはこの教会の未来についてほとんど心配はしません。」¹

残念ながら、多くの家族が苦しんでいます。しかし、聖徒たちの献身のおかげで、大きな希望が

あります。ウクライナにおいて、家族を幸福に導く永遠の原則について知る人はほんのわずかですが、その数は増えつつあります。会員たちがその原則に従って生活していくなら、友人や家族が注目することでしょう。会員たちは神の家を築こうと懸命に努力しているので、それぞれの家庭で味わっている平安を人と分かち合う機会はたくさんあります。

ヒンクレー大管長はさらに次のように述べています。「福音に従って生活するならば、人々は教会に入って来るでしょう。わたしたちの生活の美德を見て、わたしたちが教えるべきメッセージに魅力を感じるでしょう。そのメッセージは家族に非常に重きを置くものです。」² これこそが、カーコフの聖徒たちが心に抱き続けるメッセージなのです。■

マリーナ・ミハイロフスカヤはウクライナ、カーコフ地方部、アレクセイイェフカ支部の会員です。ベンジャミン・ゲインズはマサチューセッツ州ケンブリッジステーク、ベルモント第1ワードの会員です。

注

1. イグナシオ・カリオンとのインタビュー、*El Pais* 1997年11月7日付。「家庭の夕べ」『リアホナ』2003年3月号、5で引用
2. 『リアホナ』2003年3月号、5で引用



アレクセイイェフカ支部

秘密の天使

メアリー・バートスキ

数週間前から右手に少し震えがあることに気づいていました。きっとストレスから来ているのだろうと自分に言い聞かせました。7人の子供を育てることだけでもチャレンジと言えますが、その7人のうちの5人が複数の障害を持っているとなると、途方に暮れることがあります。日々の予定は、診

察、治療、毎日薬をきちんと飲むこと、そして子供たちが発作や知能発達の遅れ、そううつ状態、先天的な心臓病などと闘うのを常時助けることでいっぱいでした。

夫のロンは、そのころワードの監督に召されたばかりでした。わたしたちはロンが奉仕できる機会に感謝し、彼がワードの人々の生活を祝福

できるよう毎日祈りました。しかし、祝福を受けるのが自分たちであるとは思ってもみませんでした。

結局、手の震えをそれ以上無視できず診察を受けました。そして診療所を出たその日から、わたしの人生は一変しました。パーキンソン病と診断されたのです。心は疑問や不安でいっぱいになりました。病気はどのように進行していくのだろうか。どうやって家族の面倒を見たらよいのだろうか。ロンが新しい召しを果たすのをどうやって助け続けられるのだろうか。答えを切望し、平安と慰めが何としても必要でした。そのとき、救い主の言葉が心に浮かびました。「わたしは平安をあなたがたに残して行く。わたしの平安をあなたがたに与える。わたしが与えるのは、世が与えるようなものとは異なる。あなたがたは心を騒がせるな、またおじけるな。」(ヨハネ14:27)

何年もの間、わたしはもうこれ以上試練は来ないものと思って安心していました。一生分の試練を受けていると思ったからです。特別な助けを必要とする子供たちの世話を一生涯続けていくのだと思っていました。

ドアを開けると、おいしそうな食事が匿名で玄関先に置かれていました。



祈る勇氣

ダルネイ・デ・アスンサオ・デ・カストロ

わたし自身は、この考えを苦痛に思うどころか、自分の将来を見るときに平安と喜びさえ感じていました。わたしたち夫婦は、二人の愛らしい娘を育てるのに加えて、二人の息子に与えられたチャレンジと障害を受け入れていました。さらに、特別な助けを必要とする3人の子供を養子に迎えたいという強い望みも持ちました。新しい養子を迎える手続きを行う度に、まるで手を取って導かれているかのような奇跡を経験しました。大きな試練もありましたが、計り知れない祝福もありました。

医師の診断後、わたしはよくひざまずき、主に懇願するようになりました。パーキンソン病は進行性の病気で、だんだんと筋肉をコントロールできなくなることを知りました。調べれば調べるほど、不安が募っていきました。眠れない夜も多々ありました。診断のときに最初に告げられた言葉からして、この試練が取り去られるような奇跡は望めませんでした。この経験から何かを学ぶ必要があったのです。わたしはひどく孤独で、主がわたしに腹を立てておられるのだろうか、もう愛してくださらないのだろうかかと悩みました。

そんなある夜、ロンがミュージャルに行く仕度をしていると、玄関のドアをノックする音が聞こえました。ドアを開けると、おいしそうな食事が匿名で玄関先に置いてありました。愛のこもった手紙が添えられていて、これから毎週、同じ日の夜に夕食を届けると書いてありました。おいしい食事を食べたとき、体だけでなく、その親切な行為に霊も養われました。自分が独りではないこと、そして主がわたしを愛しておられることがはっきり分かりました。主が約束された心地よい平安を

わたしは1987年が来るのを待ち焦がれていました。18歳になり、ブラジル空軍で兵役を務められる年です。年齢が満ちると軍に志願し、国家に仕えることに専念しました。

教会の指導者から福音を伝えるようチャレンジを受けた後、わたしは教会に興味を持ちそうな人を探そうと決意しました。何度も試みましたが失敗し、少し落胆して宿舎のベッドで聖文を読んでいると、同室の兵士がひざまずいて敬虔な祈りをささげているのに気づきました。

わたしは彼に、どんな宗教を信仰しているのか尋ねてみることにしました。彼の返答は心に一筋の光を与えてくれました。食事のときや就寝前にわたしが周囲の目を気にせず祈っているのを見てきたと言いました。また以前から祈りたいと思っていたが、勇氣がなかったことを教えてくれました。そしてついに、何と祈ってよいのか分からないまま、祈ろうと決意したのでした。

わたしはこう尋ねました。「祈りの方法を知りたいですか。」彼ははっきりと知りたいと答えました。その夜、宣教師が教える6つのレッスンの基本的な部分を教え、証を述べました。御霊は、話したことがすべて真実であるとわたしたち二人にはっきりと証しました。

数週間が過ぎ、彼は教会に行くというわたしの誘いに応じました。宣教師から福音を学び、ワードの活動に参加

し始めました。

ある日昼食で祈った後、彼はわたしの目をまっすぐ見て、このように言いました。「決めたよ。バプテスマを受けたいんだ。」その言葉は心に力強く響



き、驚きと喜びがわいてきました。そして次の一言はその喜びをさらに大きくしました。「そこで、ぜひ君にバプテスマを施してもらいたい。」わたしは喜びを抑えることができなくなり、涙をこらえ切れずに彼を抱き締めると、彼はこう言いました。「友よ、ありがとう。」

時が過ぎ、わたしたちはそれぞれ伝道の申請書を提出しましたが、実は彼の方が先に伝道に出ました。今は遠く離れた場所に住んでいますが、この世の生活を超越する強いきずなで結ばれています。彼は神殿で結婚し、すてきな家族を持ちました。

周囲の人々に福音を伝え、模範を示すというチャレンジを与えてくれた、靈感あふれる指導者に感謝します。■

ダルネイ・デ・アスンサオ・デ・カストロは、ブラジル・サンジョゼステーク、サンタクララ支部の会員です。

再び味わったのです。「悲しむ者とともに悲しみ、慰めの要る者を慰める」というバプテスマの聖約を尊んでい
る、かけがえのない秘密の天使に感謝
しました（モーサヤ18：9）。この
「地上の天使」の助けによって、毎日
を生き抜く強さを見いだせることが
分かりました。

あの最初の夕食が届いてから3年以上
上がたちました。あれ以来毎週、ミ
ューチャルの夜にはすばらしい食事
が匿名で玄関先に置かれています。
ワードの境界線は変わり、たくさん
の人がワードを転出入しました。し
かし、食事は変わることなく届きま
す。いつも以上に大変な日に遭遇し、
「秘密の天使の日」であることを忘れ
て苦戦することがよくあります。し
かし、夜には玄関のチャイムが鳴り、
愛のこもった、おいしい贈り物を見
つけるのです。

わたしの病気は進行し続けており、
まだ答えを見いだせていない疑問も
たくさんあります。でも、自分が独
りではないことを知っています。主
を信頼し、御心を受け入れることか
ら来る平安を感じてきました。この
世で遭う試しの多くはわたしたちの
益のためであり、弱さを強さに変え
る助けをしてくれることを知ってい
ます。また、試しを独りで堪え忍ぶ
必要もないことも知っています。主
はいつも祈りにこたえてくださいま
すが、その答えは、進んで奉仕し、
主の「秘密の天使」になる人々を通
して来ることが多いのです。■

メアリー・バートスキは、アリゾナ州トゥーソン
北ステーク、コンチネンタルランチワードの会員
です。

アガボはどのようなのですか？

エリック・ヘンダーショット

イギリスで伝道していたある
朝、わたしは使徒行伝第11章
28節を読みました。そこには
クラウデオ・カエサル帝の時代に起き
る飢饉について預言したアガボとい
う預言者について少し書かれていま
した。そのときは、あまり深い意味がな
さそうなこの聖句についてそれほど考
えませんでした。

2日後、監督長老であるガラフェント
長老から電話があり、翌日に同僚交換
をしたいと知らせてきました。翌朝、
同僚とわたしはバスでサウザンプトン
まで行き、ガラフェント長老と同僚の
ラングストン長老と落ち合いました。
わたしはラングストン長老と戸別訪問
を始め、残りの二人はウィンチェスタ
ーへ戻りました。

その日は、昼の少し前にある家のド
アをノックするまで、特にこれといっ
た出来事はありませんでした。玄関に
出て来たのは、隣の家から遊びに來
ていた女性でした。その家に住む女
性は居間にいて、わたしの声が聞こえ
ていることがすぐに分かりました。

末日聖徒イエス・キリスト教会の宣教
師であることを伝えると、居間にいた
女性が、自分は別の宗教を信じてい
て「モルモン」をよく知っており、これ以上
知りたくないと呼びました。だれでも生
ける預言者が地上にいることに興味か
わくはずだと言うと、女性は大声で言
いました。「そんなことないわ。地上に
預言者なんていないもの。イエス・キ
リストが最後の預言者だったのよ！」

すると、不思議なことが起こりました。
心にある質問が浮かんだのです。「アガ
ボはどのようなのですか。」

すぐに尋ねました。「アガボはどのよ
うなのですか。」長い沈黙の後で女性はこ
う聞き返しました。「アガボって、だれよ。」

わたしは答えました。「キリストの後
に生きていた預言者で、いずれ起きる
飢饉を預言した人です。」

すると女性は尋ねました。「どこでそれ
を読んだの。モルモンの聖書かしら？」

「いいえ。使徒行伝第11章28節です。」

「どこか見せてちょうだい。」女性の
疑い深い返事に、隣に住む女性はわ
たしたちを中へ入れてくれ、ラングスト
ン長老とわたしは狭い廊下を通して居
間へ行きました。居間には40代の女性
がソファに腰かけていました。

わたしは聖句の箇所を開いて、聖書
を手渡しました。女性は読み終えると、
返す言葉がありませんでした。わたし
は当時の地上の生ける預言者であ
ったデビッド・O・マッケイ大管長(1873-
1970年)について話し、預言者ジョセ
フ・スミスについて証しました。非常
に強く御霊を感じたため、女性も感じて
いるに違いないと思いました。

ラングストン長老とわたしは、その
家の女性と隣に住む女性のために1冊
ずつ、合わせて2冊のモルモン書を置
いて行きました。そして天にも昇る気
持ちで家を出ました。きっとバプテス
マを受けると思いました。そうでなけ
れば、アガボについて思い出すことが
あるでしょうか。

次の日曜日に教会へ行くと、真っ先にガラフェント長老とラングストン長老のところへ駆け寄り、尋ねました。「あの家にまた行きましたか。どうなったか教えてください!」

二人は福音を教え始めようと女性を訪問したけれども断られたと告げました。女性は、わたしたちが渡したモルモン書も返してきたというのです。

耳を疑いました。あれほどすばらしい促しを受けたのにどうしてそのような結果になったのか教会の集会中ずっと考えていました。ひどくがっかりしましたが、それ以上考えないようにしました。

次の日曜日、教会に入ると、ラングストン長老が満面の笑みで出迎えてくれ

ました。

彼はこう尋ねました。「モルモン書を渡したあの女性を覚えていますか。」

「もちろん。」

するとラングストン長老は、あの家にモルモン書を合計2冊、女性と隣人のために1冊ずつ置いて来たことを思い出させてくれました。隣に住む女性はモルモン書を持って帰っていなかったのです。そのため、あの女性の知らない間に、娘さんが残りの1冊のモルモン書を読み、教会についてもっと知りたいと思うようになっていました。

女性はそのうち、娘とともに宣教師から福音を学び、二人ともバプテスマを受けました。

あれから30年以上たった今、当時を

振り返って、あのとき心に浮かんだ「アガボはどうなのですか」という質問を考えると、別の聖句が浮かんできます。「しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によってつかわされる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、またわたしが話しておいたことを、ことごとく思い起させるであろう。」(ヨハネ14:26) 宣教師として、御霊によってアガボの重要性を思い出すことができたことを感謝します。その日、聖霊はまさにわたしの教師でした。■

エリック・ヘンダーショットは、ユタ州セントジョージ・グリーンバレーステーク、グリーンバレー第1ワードの会員です。

「どこか見せてちょうだい。」
女性の疑い深い返事に、
わたしは聖句の箇所を
開きました。女性は読み終わると、
返す言葉がありませんでした。



死は新しい始まり

クラウディア・ヨランダ・オーティス・エレーラ

両親は1978年8月18日にバプテスマを受けました。わたしは当時5歳で、妹のノエリアは生後5か月、弟のルイスはさらに11年後に生まれました。わたしたち家族は1988年6月にグアテマラ・グアテマラシティー神殿で結び固めを受けました。今でもあの美しい光景を覚えています。皆白い服を着て、永遠にわたって家族として結ばれたのです。

わたしたちは、しっかりしてよくまとまった活発な家族で、生活は順調であるかのようでした。しかし、戒めを忠実に守り、天の御父とイエス・キリスト、そして御業^{みわざ}についての証^{あかし}を持ち、昇栄を得ることを切望していても、逆境に遭うことがあります。

1999年1月、父は深刻な事故に遭い、集中治療室に運び込まれました。呼吸器をつけなければ息ができず、血腫で脳が肥大していました。

父の状態について知ったとき、わたしたちはすぐに病院に駆けつけました。医者であったわたしは、一目見て父の快復の見込みが薄いことを察しました。それでもわたしたちは断食し、祈り、たとえどんな後遺症が残ったり、治療が必要になったりしても、天の御父が近いうちに父を快復させてくださり、今までのような素晴らしい導き手や守り手として再び家に帰してくださることを信じました。断食し、祈りながら、自分の信仰が強まるのを感じ、父が目を開け、快復するのを待ち続けました。

霊感あふれる監督の訪問は、試練の中で絶えず強さを与えてくれました。監督は父に神権の祝福を授け、わたしたちは好転を期待しました。

父の状態が一向に改善しないので、



監督は「悲劇か運命か」という説教のコピーを渡して、神がどのような計画をお持ちなのか尋ねるように勧めました。

わたしたちの懇願が天の御父^{みこころ}にかなっているか疑問を抱き始めました。ある夜、監督はわたしたち家族を祝福した後で救いの計画について話しました。そして快復するように祝福された人は、死に定められていないならば生きることを説明してくれました(教義と聖約42:48参照)。監督はまた、スペンサー・W・キンボール大管長(1895-1985年)の「悲劇か運命か」という説教のコピーもくれました(“Tragedy or Destiny” *Improvement Era*, 1966年3月号, 178-180, 210-217参照)。監督は、神がどのような計画をお持ちな

のか尋ねるように勧めてくれました。監督に別れを告げた後で、わたしは悲しみを抱きながらも、勧告に従うことにしました。そして、地上における父の時間が終わろうとしていると知ることができたのです。

合併症が起き、父の状態はさらに悪化しました。父はみるみる衰弱していき、皆これからどうなるのかを確信しました。父を失う悲しみに押しつぶされて、信仰や目標を失ってしまい、耐えられなくなるのではないかと心配しました。しかし、実際はそうなりませんでした。

すばらしい幸福の計画がこのときほどわたしの人生に深い意味を持ったことはありません。平安を感じ、心を落ち着けることができました。目と心が開かれ、限られた部分までですが、生命の偉大さ、栄光、莊嚴さと、この地上における短い期間の重要性を理解できるようになりました。

父に「また逢うまで」と告げる日が来ました。事故から9日後に父は亡くなりました。父が地上を去ったときにその傍らにいましたが、死に対する理解が変わっていました。天の御父がどれだけわたしたちをいとおしく思っておられるか、そしてわたしたちが御父のようになるよう必要な機会を用意されていることを感じることができました。

最後まで堪え忍ぶなら、いつの日か、イエス・キリストの贖^{あがな}いと復活を通して、栄光と不死不滅、そして永遠の命を得てよみがえることができると確信しています。死は新たな始まりにしかすぎないのです。■

クラウディア・ヨランダ・オーティス・エレーラは、グアテマラ・グアテマラシティー・ラスビクトリアスステーキ、ビクトリアスワードの会員です。

御存じでしたか？

それは9月の出来事でした

1827年9月22日——ジョセフ・スミスが天使モロナイから金版を受け取りました。

1830年9月12日——若い女性相互発達協会の初代会長であるエルミナ・シェパード・テラーがニューヨーク州で生まれました。



2マイルの精神

数か月に及ぶ計画の末、イギリス・プリマスステーク、バーンステーブル支部の若い男性たちは、3日も早くキャンプ地に向けて出発しました。カレンダーの日にちを間違えたわけではなく、通常なら車で行く道りを若い男性の会長とともに、悪天候の中、キャンプ地までの65マイル(約105キロ)を徒歩で行くことにしたのです。そのハイキングは、道路や、車の通れない小道、それにダートムーア〔訳注——イギリス南西部のデボン州にある岩の多い高原〕のごつごつした田舎道を通って行

くものでした。

そうした困難な旅が成功を収めたため、この屈強な若い男性たちは数か月後に同様の活動をすることにしました。今回はレッドルースにある若い男性のキャンプ地から130マイル(約209キロ)を踏破し、6日後に地元バイドフォードに無事到着しました。言うまでもないことですが、これによりほとんどの若い男性たちは、「神への務めを果たす」プログラムにあるハイキングの目標を達成したことになります。



1949年9月30日——総大会が初めてテレビ中継されました。

1950年9月4日——最初の早朝セミナーが組織されました。

1976年9月27日——スペンサー・W・キンボール大管長が、プロボに設立された宣教師訓練センターを奉獻しました。

写真/バーンステーブル支部の厚意により掲載：総大会でのジョージ・アルバート・スミス大管長の写真とエルミナ・シェパード・テラーの写真/末日聖徒イエス・キリスト教会記録保管庫の厚意により掲載：写真/「金版を受け取る」エルドン・K・リンスホーテ(ビデオ『神権の回復』の一部)



預言者に従う

皆さんが直面している様々なチャレンジについて、これまで大管長会や十二使徒定員会が説教の中で触れてきました。今度導きや指導が必要になったら、預言者たちの説教を探して、助けを教えてください。www.lds.orgにアクセスすれば、総大会や教会機関誌で述べられた勧告を見つけることができます。



ホームページの画面右上にある世界地図をクリックし、言語を選択してください。



命のパン

わたしは命のパンとイエス・キリストの愛を人々に伝えるために伝道に出ました。これまで主について学んできて、主の恵みと祝福を受けており、またこれからも享受していくことでしょう。

ロシア・モスクワ伝道部
スベトラーナ・バシュキナ

『リアホナ』はとても役立ちました

『リアホナ』があることに心から感謝しています。伝道期間中、『リアホナ』がとても役立ちました。『リアホナ』を読むのが大好きです。

コンゴ共和国ブラザビルステーク、
バコンゴワード
ボリス・ンコディア



「髪の毛なんて」

2003年8月号の『リアホナ』に掲載されたジュリー・ハウスホルダーの「髪の毛なんて」という話がとても好きです。もしわたしがジュリーの立場だった

読者からの便り

ら、「なぜわたしが？」と神に尋ねたことでしょう。ジュリーはイエス・キリストへの強い信仰を持つ模範的な人です。また勇敢な女性だと思えます。髪の毛があってもなくても美しい人です。わたしは力を与え、歩むべき道筋を示してくれるこのような記事を読むのが好きです。

フィリピン・ナガステーク、
ナガ第1ワード
ドナ・サンチェス

主を忘れていました

教会の集会に出席する度に、何としても毎週行きたいという気持ちになります。でもいろいろな理由があって、それほど出席できないでいます。言い訳なら幾らでもあります。わたしはエイズ感染者であり、人生はほんとうに複雑なのです。日常生活はもっと複雑です。でもジュリー・ハウスホルダーの「髪の毛なんて」という記事は、生活を整え、新たな目標作りをするために必要な力を与えてくれました。

ジュリーに起こったのと同じことが起こりました。わたしも髪の毛をほとんど失いました。わたしの場合は、命をつなぐために必要だった強い薬物療法が原因でした。でも彼女の証^{あかし}によって、自分を変える必要があることに気づきました。今わたしは、もっと従順になろうと努めています。天の御父のもとへ帰るといふ目標を見失っていました。病気のために主を忘れていました。そのことによりやく気づき始めたのです。

『リアホナ』の中で世界中の会員たちの証^{あかし}や指導者の話が紹介されることに感謝しています。

匿名



ホームティーチングや 家庭訪問に 関する経験を お寄せください

よいホームティーチャーや訪問教師になるうえで、会員を鼓舞できるような経験はありませんか。あなたのホームティーチャーや訪問教師はどのようにして生活を祝福してくれましたか。もし紹介できる体験談がありましたら、下記のあて先にお送りください。

郵送先——Home and Visiting
Teaching, Liahona, Floor 24,
50 East North Temple Street,
Salt Lake City UT 84150-3220,
USA

電子メール——

cur-liahona-imag@ldschurch.org

上段左——「最後の晩餐」サイモン・デュイイ画。
ユタ州アメリカン・フォークにある
アトラス・ファイン・アート社の厚意により掲載。
複写は禁じられています



ゴードン・B・ヒンクレイ大管長は次のように説いている。
「家庭は徳が最初にはぐくまれる場所であり、
人格が形成され習慣が確立される場所です。
家庭の夕べは、まさに主の道を教える機会です。」
「悪に立ち向かう」2ページ、「家庭の夕べ提案箱」32ページ参照。